

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候が良く、気温も暖かいため、人出が多く、客の入込もとても多い。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・道外からの家族客、グループ客が好調である。人数的には大きな伸びではないが、宿泊単価、その他収入の消費単価が上昇している。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・観光客の動向をみると、南北海道エリアは伸び悩んでいる状況であるものの、札幌エリア、富良野エリア、知床エリアは大幅な増員である。交通、食事、宿泊の関係者の動きも活発化している。
やや良く なっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・昨年同様に8月に入ってから夏日が続き、ビール、アイスクリームなどの飲料関連商品や水着、Tシャツなどの衣料品等を扱うコンビニ、酒屋、衣料品店、居酒屋が好調に推移している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は天候に恵まれたことから、夏休みの観光客が増加した。休日のイベント実施の影響もあり、飲食店では客の入込が増加しており、傾向としては上向きにある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は好天が続いているせいか、外出する人が多く、取引先の飲食店もかなり潤っている。
		一般小売店〔土産〕（店員）	お客様の様子	・8月は年間でも一番忙しい月だが、今年は全国的な景気回復の影響もあるのか、家族単位で帰省や夏休みの旅行を楽しんでいるようであり、航空機の乗降客数が増えており、それに伴って来客数も増えている。客単価もやや改善傾向にあり、売上も微増している。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・去年、苦戦していたフォーマルや呉服等の高額品の動きが今年は非常に良い。秋の新製品もスタートから非常に好調である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上も販売量も、3か月前と比べて、ほんの少しではあるが良くなってきている。客足が少し戻ってきていると感じる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候に恵まれたことから売上は大幅に回復傾向にあるが、ガソリン高騰の影響からか自動車来店する客の動きが鈍い。天候面のプラス要因が無くなれば、週末の来客数が減少し、単価も低下する可能性が高い。
		住関連専門店（従業員）	販売量の動き	・夏物商品が一気に売れた。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数が回復していることもあり、8月の旅行者数はようやく前年比100%を超えることができた。間際の申込増が効いている。単価が高いにもかかわらず、沖縄旅行が前年比200%を超える伸びを示しており、しばらく続行する勢いがある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・秋の国内旅行の受注が増加しており、海外旅行も9～12月にかけての受注が増えてきている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が増えている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・7月にはガソリン高騰の影響で堅い支出傾向にあったが、8月になるとその傾向も薄れ、前年よりも8%増の売上となった。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・最近では、以前のように仕事がないという話を聞かなくなった。少し前までは、仕事があるところと無いところをはっきりしていたが、満遍なく仕事が回っているようだ。それだけ何らかの物件が動いているということである。
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・残暑が続き、夏物商品はそれなりに消化ができているものの、客単価が低い。秋物商品に関しては、客の購買欲がいまいち出てきていないのか、それほど動きがみられない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暑さは続いているが、客の買い方は変わらないままである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・真夏日が続く猛暑の影響を大きく受け、売れ筋商材が変化している。洋品、雑貨などの盛夏商材は実需を取り込んで伸長しているものの、秋物の定価商材の出足が鈍り、客単価の低下を招いている。また高校野球の盛り上がりも来客数にマイナスの影響を与えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・北海道全体における既存店の売上高は前年比95.7%と前月から2.7%の減少となっている。部門別にみると、特に住居用品が前年比91.5%と低迷しており、前月を8%ほど下回っている。衣料品も前年比を上回っていた前月からダウンしており、前年比97.7%と減少に転じている。主力の食品は旧盆商戦の成功から、前年比99.2%と前月からは1.3%ほど回復している。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・猛暑のおかげで売上が良かったものの、景気の回復は感じられない。客は本当に必要に迫られたものしか購入しないことを、今月も深く実感した。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・天候要因により来客数が増加したが、商品単価は上昇しておらず、100円以下の商品や特売品の動きだけが良い。単価の高い商品群の動きは悪いままである。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・気温の上昇に伴い、買上点数が著しく伸びている。たばこの増税の影響も少なく、前年実績を上回っている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・展示会の様子を見ると、来客数が少なく、また客の買い方も慎重であった。良い物であっても買わないという状態が続いている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・販売単価が下落しており、昨年と同数を販売しても売上総額がダウンするという状況にある。実際には昨年同数を売ることも非常に困難である。
		家電量販店（店員）	それ以外	・8月になって気温が上がったのに伴い、少しは夏物商品が売れた。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビは引き続き好調であるが、伸びは鈍化している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注台数が前年実績を超えてこない。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少に歯止めが掛からない。来店促進策を講じていても、なかなか功を奏しない現状である。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・石油製品の高騰が続いており、燃料の節約がなされている。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・宿泊客は前年並みであり、レストラン利用の増加は期待できなかった。前月同様、観光客向けメニューの設定や全体的な単価調整により増収が図れ、今月も施策が功を奏した結果となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年比105%と好調である。例年、8月は下旬以降に落ち込んでくるが、今年はほぼピーク時の売上をキープしている。ランチは待ち時間ありの満席の状態が続いている。この頃は、修学旅行生が目立つようになっている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月は猛暑の影響で大苦戦した。売上全体では前年比30%減となった。部門別売上をみると、ランチが20%ダウンしたほか、ディナーは35%ダウンした。ディナー客は気温上昇とともにビアガーデンに流れるようになり、特に料理より飲物の減少が目立った。またお盆休みを例年より長く取っている人が多く、外食費が節約されている。個室は企業の利用が順調で前年並みであった。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年からみればやや良くなっているが、前年は愛知万博の影響があったためであり、前々年度からみると変わらないと評価している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客の流れがやや活発化してきているが、残念ながら販売額には表れてきていない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・北海道は例年にない猛暑で、各種イベント等も盛り上がりを見せたようであるが、タクシーの需要は前月、前々月とさほど変わらなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		設計事務所（職員）	単価の動き	・酪農振興策の一つとして大手乳業メーカーのチーズ工場が相次いで着工したこともあり、鉄骨製作工場では、年末まで仕事が埋まっているが、建設会社によれば単価面で厳しく、とても景気が上昇するような状況ではないとのことである。	
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・モデルハウスへの来場者は相変わらず前年を下回っている。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売額の動きが悪いこともあるが、単価が下がり気味で、客の動きが非常に悪い状態である。	
	やや悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・例年になく残暑も影響していると思うが、先行き不透明感と相まって、なかなか客の購買に結びつかない状況である。
			百貨店（売場主任）	お客様の様子	・出足は順調だったが、中旬から大幅に集客が減っている。好天続きでアウトドアを行うのに好環境となったことが、小売には向かい風となった。全館的に20～30代の来客が大きく減っている。
			住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・商店街の他店の動向だが、退店、倒産が相次いでいる。
			一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・来客数は前年並みだが単価が7%ほど下落しており、2か月連続しての単価低下となった。特に8月は子供連れのファミリー客が例年に比べ多く、アルコール飲料の売上が大幅に減少した。
	悪くなっている		タクシー運転手	来客数の動き	・8月はお盆休みなどがあり、タクシーの利用が減る時期ではあるが、今年は暑い日が多く、雨の日が少なかったせいか、昨年よりも利用客が減っている。観光客は増えているようであるが、観光客のタクシーの利用は増えていない。
	企業動向関連	良くなっている	-	-	-
			やや良くなっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
変わらない			輸送業（支店長）	取引先の様子	・大手鉄鋼メーカーによるグループ化、系列化が一段とはっきりしてきた。道内経済の回復の遅れもあり、道内向けの物量が増加していない中、メーカーの系列会社への貨物の集約、集中がみられる。
			輸送業（経営者）	取引先の様子	・燃料の高騰が影響している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・原油の高騰は継続しているものの、紙パルプ、肥料、飼料、飲料等の生産工場における生産数量に今のところ大きな変化は出ていない。	
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は、自動車、食品関連の能力増強投資で増加している。観光関連も来道者数が増加し、土産物品を扱う食品メーカーや小売は堅調である。しかし、公共投資が減少基調にあるほか、住宅投資は耐震強度偽装問題の影響で分譲マンションが不振である。石油製品価格の上昇が企業収益を圧迫しており、総じて景気は横ばいとなっている。	
		司法書士	取引先の様子	・新聞などでは住宅建築が伸びているように報道されているが、実態は以前と変わらないままである。	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業の減少を幾分民間工事量でカバーしている。	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・設備投資を検討する企業がある反面、倒産や資金不足が表面化する企業も散見される。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・一部非鉄加工分野で集中的に仕事量が増加しているものの、一般的に低位で推移しているのは変わっていない。	
やや悪くなっている		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業を中心とする請負物件が低迷している。	
		出版・印刷・同関連産業（役員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の仕事の減少傾向が続いている。競争がより激しくなっており、デフレも収まっていない。原材料価格の高騰も影響している。	
悪くなっている		-	-	-	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連	良く なっている	学校〔大学〕 (就職担当)	採用者数の動き	・採用内定者が前年と比較して10%程度好調である。このままで推移すると年度末の就職率はかなり良くなる。しかし、内定辞退者も多く、企業としては採用枠を充足しない可能性もある。
	やや良く なっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・第二次、第三次産業の求人広告受理件数が、若干増加していることから、求人意欲が活発になっている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・5月以降、新規求人の増加が続いている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数が3か月連続して増加しており、7月までの対前年累計比は6.5%の増加となっている。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・例年のことだが、求職者の動きが鈍くなる時期であり、そうした状況に変わりはない。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・ここ数か月、好調さの水準に大きな変化はみられない。アルバイトは道内アウトソーシング、人材派遣、飲食、小売、病院・介護等の求人をはじめ全般的に好調である。正社員の求人に関しても、業種、職種ともにバラエティーに富んできている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・地元求人数だけで見ると下降気味ではあるが、決定率がやや改善傾向にある。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人は医療・福祉で増加しているものの、卸・小売業、サービス業で減少しており、全体では1.2%の減少とほとんど変化がみられない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・有効求人倍率、新規求人数ともに前年比の減少幅が小さくなってきている。
	やや悪く なっている			
悪く なっている				

2. 東北(地域別調査機関:(財)東北開発研究センター)

(- : 回答が存在しない、_ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他専門店 〔食品〕(経営 者)	販売量の動き	・地元での小売高は若干減少したが、首都圏向けには活発な荷動きがみえてきた。
	やや良く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・景気が良い、という店が散見されるようになってきた。
		百貨店(売場主 任)	販売量の動き	・前年比は若干下回っているものの、暑さにより夏物のクリアランスが好調だったため、3か月前ほど悪い状況ではない。
		百貨店(経営 者)	販売量の動き	・セール中心ではあるが、服飾雑貨、婦人ファッションがここしばらく好調で、あわせて紳士関連も2けたを越す伸びとなっており、食料品、中元関連の不振をカバーして推移している。
		スーパー(経営 者)	単価の動き	・既存店客数が堅調なことに加えて、単価が前年同月を上回っている。
		スーパー(経営 者)	販売量の動き	・梅雨明け以降は好天に恵まれ、30度以上の真夏日も連続したため、夏物商品の販売が順調であった。また、やや上質なものを買っているということから、客のゆとりを感じる。
		コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・来客数が7%増加と好調だったが、単価は1%増、買上点数は0.03ポイント増とやや弱い。
		コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・気温が上がってきて、客数が増えてきている。
		家電量販店(店 長)	販売量の動き	・季節商品が上向きになっている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・前年同月と比べると販売台数が伸びてきている。今から繁忙期に入ることもあって期待できる数字が出ている。サービス部門も、在庫台数はいまだ前年割れしているが単価減を補えるような整備内容になりつつある。
住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・当社で扱っているお盆関連用品が、前年より売上を伸ばした。		
その他専門店 〔靴〕(経営 者)	販売量の動き	・8月は気温が高い日が続く、サンダル等の夏物商品の消化が例年よりも進んだ。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・当月は夏休み、夏祭り、お盆などイベントの多い月で、客の動きも多く家族連れが大半であった。他の時期の家族連れと違い財布のひもが緩く、館内消費が良好だった。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月後半からお盆期間にかけて、かなりの来客、売上があった。同業者からも同じような話を聞いた。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・天候の回復とともに、団体客以外のフリー客の来場も増えている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・景気回復とはいえ人の流れが大型店に集中している。格差を身にしみて感じる。弱小の商店街に対抗策はない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・梅雨明けにより、来客数、売上は少し上向いたが、季節商品のエアコン、夏物衣料などは時期を失し、店主からは「あと1週間梅雨明けが早ければ」との声がある。なお、夏祭りの季節で、安価な女性用浴衣の売行きが好調である。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・雑誌、書籍共にヒット作が少ない。また、期待していた夏休み時期の児童書やコミックの売行きが伸び悩んでいる。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	来客数の動き	・天候によって客数はばらつきがあるが、力強さはない。仕入価格は徐々に上がっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・婦人服売場は秋物がメインであるが、猛暑のため客からは見向きもされない。一方、別会場の夏物セールは好調である。ヤング、キャリア層は秋色夏素材の商品をプロパーで打ち出しているが、ブランドによってばらつきがある。ミセス層はジャストシーズンを求める人が多く、夏物商品を単品買いする人がほとんどである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・当月の業績は、前年を上回る見込みであり、特に来客数は大きく増加した。ただし、これは前年不調であった夏祭り、お盆などの期間が、本年は天候に恵まれたことが来客増の主因であり、決して悪い状況ではないが力強さは感じない。
		百貨店（売場担当）	単価の動き	・セールの売上は8月後半になってからも勢いがあり前年比200%を超える。しかし、催事場での企画によるシャワー効果は期待ほどではなく、意外と厳しい。
		百貨店（販促担当）	お客様の様子	・前半は夏物セール商戦が好調に推移したが、後半になると、端境期企画の初秋物、晩夏物の動きは残暑のため鈍かった。季節商品は、浴衣が2けた増であったが水着は逆に苦戦を強いられた。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・客数、販売量、単価ともに前年並みで推移している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・たんす在庫にない商品で、かつ、気に入った商品のみ購入する傾向は、男性ほど強くなっている。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・当月は季節商品、パソコンの新商品の遅れなどによるマイナスを、AV機器、白物家電でカバーしている状況で、全体的には前年と変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・ここ半年くらい、ガソリン高騰と金利上昇懸念から、軽自動車を中心とした安価で小型な車へ販売が偏る傾向が続いている。一部低金利クレジットでの販売は好調に推移している。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新車の販売では、見積を提出しても時間が掛かり、なかなか決まらない状況が続いている。車検をとる人は以前よりも増えており、11年目の車でも車検をとる人が多くなっている。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	販売量の動き	・新商品で単価の安いものは売れるが、高いものは厳しい。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・前月の天候不順の影響が、夏物は見込みよりも少なかった。後半は暑くなってきたが、売上には結び付かなかった。景気が良くなっているような実感はない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・ガソリン価格の上昇で販売数量が前年割れを続けている。特に高速道路と平場の価格差が大きく、高速道路に近い給油所の落ち込みが大きい。また、軽油の販売が落ち込んでおり、公共事業の発注の落ち込みが響いている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・お盆前までは比較的好調だったが、お盆以降は客の出足が鈍く、あまり変わらない。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	販売量の動き	・倒産する企業もまだ多く、景気の悪い状況が続いている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、一般宴会は予算を達成するものの、レストランは低迷している。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・法人、一般企業より会合の問い合わせは順調に推移しているが、婚礼利用が伸び悩んでいるため会社全体の売上げは厳しい。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人関係は夏がボリュームゾーンであるが、思うように伸びていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資、並びに、経費削減に関する意識に変化はない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・お盆の期間中は天候不順で、花火のイベントを一部中止するなどしたが、大崩れまではいかなかった。何とか計画値に並ぶところまでできたが、上向くまでにはまだ遠い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の回転率が鈍化しており、2、3か月前と同様に、前年同期を下回る状況が続いている。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・二極化の傾向が顕著になった。これまで低迷していた高級、高額商品がすんなり売れたかと思えば、中級以下の低額商品の売行きは明らかにマイナス傾向に入っている。売手側の悩み、迷いが深刻になっている。新しい形の商業不況に陥るのではないかと心配している。	
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・売上の高いお盆期間は前年実績をクリアしたが、前後の売上は前年を割っているため、今月の既存店前期比は98%になっている。8月は気温も高く夏物商品の売行きが回復したが、それでも前年並みでプラスにはならなかった。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当月は残暑の影響が大きく、前月に売れていた初秋物の動きが止まった。暑い日が続いているため、来客数が激減している。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・天候に振り回されて厳しい状況が続いている。梅雨明けはしたが時期が遅かったため、夏物スーツの購入を我慢する客も多く、販売は不調である。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・当月は秋物の立ち上がりの時期であるが、とても暑い日が続いたため、客は秋物を見ようという気持ちにならず、かといって夏物にはもう興味が無い、という状態だった。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・財布の中身はいっしょなので、この単価では販売数量が減るだけである。	
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・仕入先の酒屋の販売量も低下しているとのことである。市場でもいい魚は出ていないので、少なくともこの地方に限っての景気は停滞している。		
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・宿泊部門は客数を維持しているが、レストラン部門は低迷している。特にお盆の時期は動きが全くなかった。		
一般レストラン（経営者）	それ以外	・景気が良くなっているというのは一部の大手企業のことではないか。少なくとも夜の飲食業については、当店だけでなく周囲の店も良くなっていない。客も様々な業種の人がいるが、良くない話ばかりであり先がみえない状況である。		
都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・梅雨が明けて急に暑くなり、個人客の動きは非常に悪くなった。あわせて、法人関係の動きは長期の休みもあり極端に少なくなった。よって、来客数は大幅にダウンしている。		
タクシー運転手	販売量の動き	・前月との比較ではさほど変わっていないので、悪くなっているという印象は薄いですが、前月の悪くなった状態を引きずっている。		
通信会社（営業担当）	単価の動き	・原油高騰に伴い、クリーニング代、冷凍食品、ガソリン等、あらゆる物価がじわりじわり上昇してきている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	お客様の様子	・景気回復に影響があると思われる夏期も、行楽シーズンでの出費のしわ寄せがくるため、美容業界では逆に不景気となる。もう少し景気回復がなされれば、余裕が出てくる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・燃料費の増加に伴って、修理費が削減される傾向にある。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・常設展示場への来場者がほとんどなく、新規顧客がないに等しい。
	悪くなっている	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来店者数が例年よりも少なくなっている。誘客のための催事を考えなければならない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・昨年12月より前年比マイナスの月が続いていたが、7、8月は特に落ち込みがひどい。お盆の集客も思わしくなく、例年では考えられない状況だが空室の発生した日もあった。当旅館だけではなく温泉地全体で低迷している。
企業動向関連	良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・7月の長雨、日照不足の影響を心配していたが、当月は天候が回復し、桃の品質が特に良く、甘みも増したため販売価格も良かった。注文数が前年より5%程度増加した。
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・牛タンの原材料の仕入価格相場が下がってきたことから、商品の内容量を増やしたところ好評であり、販売量が増加した。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・各アパレルメーカーは展示会発注を手控えていたが、売れ筋をつかみ、品ぞろえの関係からの受注が増えている。納期遅れが心配である。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の需給環境が改善されつつあり、収益改善がやや進む。
		輸送業（従業員）	取引先の様子	・中国向けのデジタル製品の輸出が上向いてきた。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・高温多湿のため、飲料水、冷菓、乾めん、調味料などが非常によく売れた。一品単価は下がっているが、点数は5%ほど増えた。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品、民生機器ともに高水準にあるが、3か月前との比較では大きな変化はない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・地域の状況は全般的に順調に推移しており、大きな変化はない。ただし、相変わらず原材料価格の高騰が各社に影響しており、それを吸収するために変動費の削減を模索している。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間設備投資は活発であるが、公共工事が少ないこと、単価が低下していることにより受注総額は減少している。
		金融業（融資担当）	それ以外	・8月に入り天気が回復、併せて祭等のイベントによる観光客の入り込みも目立つようになり街全体が活気を帯びたが、後半以降は特段のイベント等もなく、これまでの状態に戻った。
		広告業協会（役員）	取引先の様子	・新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ広告は、このところ出入りはあるものの、増減は少なく推移している。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売実績が下げ止まり前年比をクリアしているが、相変わらず地元の実績が厳しい。東北の景気回復はまだまだ先である。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・得意先である住宅会社各社の受注状況は、大きな変化がなく一定に推移している。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・親会社からの受注が激減するなど厳しい状況に置かれている企業があり、中小企業の景気は良いとはいえない状況である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折り込みチラシが2か月連続で前年同月を下回り、かつ、前月を大きく下回っている。当地域だけでなく、都市圏でも1日の折り込みが5種類に満たない日もある、と運送業者から聞く信じられないような状況である。2紙購読していた人が1紙にするなど、財布のひもが固くなっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・ハウス栽培を行っている大規模農家は原油高を販売額で吸収できなくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、8月は1年の中でも最も数字が悪いが、前年と比較しても販売量が減少している。企業の購入形態も本社で一括というような動きになっている。
	悪くなっている			
雇用 関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・当月は企業側の事業規模拡大や移転に伴う募集が非常に多く、夏期休暇の影響など全くないほど募集は好調である。特に建設系企業の採用が積極的である。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・インターネットでの求人件数が増えた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・平成19年3月高校卒業予定者にかかわる求人の受理状況は、7月末現在累計は対前年比7割増となっている。業種別でも製造業3割増、卸小売1.6割増、建設業9割増、宿泊業7割増など全ての業種で大幅に増加している。
	変わらない	職業安定所（職員）	それ以外	・ここ2、3年求人申込のなかった事業所や、初めて求人申込をする事業所からの求人が増えており、いくらか景気が上向いていると感じられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・東京や大阪からの求人募集は相変わらず好調だが、地元からのオーダーは少なくなっている。その中では派遣会社を中心に徐々に地元からのオーダーが増えつつあり、それが一般の募集までつながれば上向くのだが、現状ではそこまで至っていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新聞広告の申込は業種によりばらつきがある。スーパー関連の流通は好調だが、車のディーラーや住宅関連の出稿がない。広告売上げ全般では、横ばい状態である。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者の減少傾向も一段落し、正規雇用を目指す職求職者がやや増加している。
人材派遣会社（社員）		周辺企業の様子	・派遣先での派遣社員の残業時間は少なく、増員の依頼もほとんどない。派遣よりもコストの安いパートやバイトの求人は堅調の様子である。どの業界、どの企業もコストに敏感で余裕は感じられない。	
	悪くなっている	-	-	-

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・地物の特産品をメニューに加えた効果が出てきたのか、特にこの春から夏にかけて、県外からの客が確実に増加している。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	来客数の動き	・気候が不安定であったこともあるかもしれないが、来客数が非常に増えている。インターネット喫茶、ネットゲームに対する客の食いつきが非常に良く、来客数がかなり増えている。
	やや良くなっている	スーパー（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べ、売上は7.5%、来客数が6.8%伸びている。客単価及び一人当たりの買上点数は前年と全く同じ状態である。しかし、部門的には、青果、精肉、鮮魚など生鮮部門の伸びがあまり良くない。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・8月に入り、気温の上昇から盛夏商品の売行きが好調で、前年同月の販売数量を20日間で売り切る勢いとなっている。特に、飲料、アイスなど、気温に一番左右される商品群が売上をけん引している。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・梅雨明け後、顧客クラスター別の戦略を一気に展開し、盛夏商材の動きが活発化した。お盆もクラスター別メニュー起点の展開が功を奏し、食品の買上点数、単価共に上向いている。来客数は前年同週比で108%である。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・暑いこともあり、不景気という割には今までと比べて夏休み中の学生に購買意欲、動きがある。しばらくは良い方向に向かっていく。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏前の稼働に比べて宿泊は緩やかに伸びている。ただし、客の動向をみると無駄な事はしない、動かないという傾向がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店(支店長)	お客様の様子	・梅雨明けと同時に暑くなり、客の旅行熱が一気に上がり、8月前半はとても好調な売行きを記録した。お盆過ぎになるとその傾向は下がり気味になったが、全体的には個人旅行を中心に国内、海外共に堅調で、やや良くなっている。
	変わらない	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・残暑が続く、紳士服、特にスーツ関連は厳しい状況が続いている。晩夏物を含め、秋色夏素材の展開を早めにし、月ごとに細かく指示をしていることが後半の勢いにつながっている。
		百貨店(総務担当)	それ以外	・新商品の効果が、今月は快気祝いと法人のギフトが多くなっている。
		百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・天候不順で、婦人服を中心に夏物衣料品の売上不振が続いている。
		スーパー(販売促進担当)	販売量の動き	・当店のテナントの売上額は前年比111%となっているが、好調な店舗は夏のクリアランス、処分品の打ち出しをしているところであるため、一概に良いという判断ではない。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・長梅雨のためか、来客数が前年より10%も減少している。
		乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・暑い日が続いていることもあるが、来客数が前年比70%に落ち込んでいる。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・自動車業界は、全体の数量減少と需要が大型から小型へ移っていることから、収益が悪化してきている。
		その他専門店[携帯電話](営業担当)	販売量の動き	・夏のボーナス商戦の流れから、上旬の販売は順調であったが、後半、特にお盆明け以降の販売は大幅に落ち込んでいる。
		スナック(経営者)	競争相手の様子	・当店が加盟している飲食業組合の加盟店の話では、お盆過ぎまでの動きはまあまあであったが、お盆過ぎは激減したとのことである。
		観光型ホテル(スタッフ)	単価の動き	・トップシーズンという事もあり、通常より当然売上、来客数とも多いが、例年並みの来客数がある割に売上が上がってきていない。ここ数年、単価と付帯利用売上が年々落ちてきているが、今月は特にその影響を重く感じた月となっている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・夏の家族旅行の受注が前年に比べ20%減少している。ただし、長距離の旅行は若干増えている。
		旅行代理店(副支店長)	お客様の様子	・農家が多い地域のため、長雨災害、天候不順で客の足が重くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昼間のタクシー需要は相変わらず好調であるが、夜間需要が低迷しており、その結果、横ばいに推移している。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・前月3%くらい増えていると回答したが、今月に入り、逆にその3%分減少している。先々月、その前と比べても横ばいである。
		美容室(経営者)	それ以外	・残暑が厳しくなっているため、美容院の入店客数は徐々に増加している。また、設備投資の相談件数も徐々に増えてきたので、少し良くなりつつある。
		設計事務所(所長)	来客数の動き	・2~3か月前と比べ来客数は変わらないが、小さい物件が多いため単価は安い。
	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・金利変動により、客の動きが始めたが、実際に売る物件が不足している。まだまだ地価が安いので、換金する方が少なく、供給が追い付かない状態である。	
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・数か月間に渡り販売量は横ばいの状態が続いており、好転の兆しはうかがえない。	
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・以前と異なり、来店しても、よほどのことがないと購入しないので、販売量が激減している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・8月に入ってからの酷暑続きでお盆の後ほどの店も売上が激減し、落ち込んでいる。特に、衣料品店は夏物も秋物も売れないということで閉口している。
		一般小売店[家電](経営者)	お客様の様子	・全般に購買意欲がないのか、慎重なのか、修理不能以外の家電製品購入がみられない。家計の中で出費構成が変化しているようである。
		衣料品専門店(店長)	単価の動き	・いつもならお盆明けに値段を安くしなくても売れる初秋物の動きがあったが、今年は夏物の処分品しか売れていないため、客単価が低くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・梅雨が長引き夏到来が遅くなった影響で、夏物は苦戦、バーゲンもかなり低迷した。来客数も少ない。その上、残暑が厳しく、現在秋物の立ち上がりにも相当影響している。まだ下見に来る客も少ない状況である。
		乗用車販売店 (経営者)	単価の動き	・前月同様ガソリンの値上げが販売に影響している。大型車への乗り換えは控えられ、軽自動車等へ乗り換えるユーザーが多く、それに伴い利益、売上高の確保が難しくなっている。
		自動車備品販売店 (経営者)	お客様の様子	・販売台数は伸びているが、値下げを要求したり、他店を意識していたり、不景気だという客が多い。
		高級レストラン (店長)	来客数の動き	・お盆中の来客数はまずまずであったが、それ以外の平日の来客数が特に落ち込み、普段の夕食を控える傾向が強くなっているように感じている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・例年8月は悪い上に、今年は選挙があったので落ち込むことはある程度予想していたが、月末になっても出足が戻らない。宴会、フリー客共にあまり良くない。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・市内の同業施設全般において宿泊が芳しくないという情報が多く、競合施設の新規開業の影響で下降気味となっているだけではなさそうである。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・現状、景気が悪いのはガソリン価格が上がっていることが一番大きい。その上、給与や賞与が増加しないなかで、社会負担、税負担の増が大きく効いている。
		ゴルフ場(副支配人)	来客数の動き	・来客数の動きのほかに、経費面で燃料費の高騰が収支の悪化につながっている。
		その他サービス [自動車整備業](経営者)	来客数の動き	・ここ数年8月の在庫量が減少しており、前年度に比べ今年は10%減である。また、最近では、ボーナスにかかわらず車両の販売が、年間を通じ平らになっている。
		悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き
衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き		・今までより客単価が大幅に低くなってきている。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	不動産業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・先月からテナント賃貸面積が増床した分だけ賃貸収入が増加している。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注量、システムの納入高、共に増加傾向にある。ただし、短納期、単価の据置きと、厳しい状況に変わりはない。競争も激しく、収益の改善には時間が掛かる。
	変わらない	食料品製造業(営業統括)	受注量や販売量の動き	・夏休みに入り、工場見学者が若干、増加しているものの、販売数に変化はない。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	取引先の様子	・例年通りの動向であるが、旧商品のデザイン入替えによる受注が増えつつある。
		一般機械器具製造業(生産管理担当)	受注量や販売量の動き	・主力の四輪駆動車向け部品は大きく落ち込んだものの、他業種の仕事が全般的に増加し、前年同月比で約8%増の売上を確保できている。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・部品加工の関係は安定した生産を行っている。しかし、単価は相変わらず厳しく、また納期の短縮要請も多々ある。
		金融業(経営企画担当)	取引先の様子	・製造業に関しては、自動車部品関係は好調である。ただし、原油高騰の影響で原材料、特にプラスチック関係、鉄などの値上げが著しく、物によっては2割程度、値が上がり、製品価格に転嫁せざるを得ないような状況になっている。
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・夏の販売商戦における宣伝広告費は期待したほど伸びず、昨年とほぼ変わらなかった。一部富裕層のバブル景気の報道はあるが、地方一般のレベルでは、全くその気配がない。
		新聞販売店[広告](総務担当)	取引先の様子	・先月の豪雨災害の影響が懸念されたが、その時の出稿不足が今月に回ったのが、チラシ出稿量は106%と好調に推移している。しかし、豪雨災害の影響で、果樹の出荷量は激減しており、例年の選果場に比べ、午前中の早い時間に作業が終了してしまう日が続いているということである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・増加していた商業、サービス業、不動産業からのスポットコマースがここに来て減少に転じてきている。地域の祭りや商業からのイベント受注は回復しているが、タイムコマースが減少しており、売上は横ばいであるが、利益は減少傾向にある。
	やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・石油製品の価格高騰分を商品に上乗せできれば良いが、いまだにできず、本当にいよいよというところまで来ている。解決策を見付けなければ、本当に難しい状態である。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・各宝飾店とも売上が伸びず、特別なセールをしないと売れないということで、どの店でも仕入れの必要性がない状態である。7月に続き8月も前年割れである。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・天候不順のため、夏季商品、レジャー用品などの輸送依頼が前年割れをし、また、燃料高による負担もあおりを受けている状況である。
	悪くなっている	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年比で約10%減少している。8月は7月予想からみてもやはり10%程度落ちており、悪い方向にある。賞とも前年比で10%ほど少なくなっている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業削減により、我々地方都市の業者は大変影響を受けている。受注競争激化により、赤字工事でも受注してしまう物件もある。民間工事受注に力を注いでいるが、まだまだ実績が出ていない。10か月経過した段階での売上高は前年比で56.5%しか確保できていない。
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・付き合ひのあるホテル、宿泊施設の稼働率が前年より2～3%上昇している。夏の繁忙期は例年良いが、前年同月比でも上昇しており、客が戻ってきている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数の動きが活発である。派遣スタッフの求人要請が非常に多い。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・求人広告の申込が大変増加している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・8月は住宅関連の施行による求人数が目立っている。同じく販売、購買関係、特に洋品関係の販売の求人が相変わらず出てきているが、その他の電子、自動車機械部品関係は、継続的な求人のみで、特に人の動きがないようである。全般的にはあまり変わらない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・求人募集企業は依然として増加傾向にあり、正社員募集も増えてきている。サービス産業の出店も多く、総体的に募集件数は増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人の減少は続いており、歯止めが掛からない状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人の伸びは少なく、求職者も減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の動きは増加傾向が強くなっているが、派遣、請負の求人や量販店の求人が3割近くを占めており、相変わらず直接雇用を含む正社員の求人状況は厳しい。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・けん引する製造業の企業にばらつきはあるものの、堅調に推移しており、開発系、現場系共に、求人増加が目立っている。
	やや悪くなっている	学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・一時期のように集中した求人はなく、落ち着いてきている。盆明けから企業の採用活動が再始動し、2次募集、3次募集を行っている企業もあるので今後の流れに期待したい。
	悪くなっている	-	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	百貨店（店次長）	販売量の動き	・3か月前と比較して、来客数は同じであるが、買上点数が違ってきている。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・4月以降、売上高、販売量は着実に前年同期の水準を上回っている。8月も前年同期に比べると売上が伸びており、景気はかなり回復している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや良くなっている		観光名所（職員）	来客数の動き	・ 8月の来客数は前年同月比126%となっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ 7月のクレジットカード取扱高が過去最高を記録し、例年は商売が冷え込む8月は、同月としては2000年からの集計では一番良いペースである。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・ 今年度の売上実績は景気の影響よりも天気の影響を大きく受けている。8月に入り一時的に気温が上昇して夏物商品に動きが見られ始めたが、8日以降は台風7号の接近等で気温がなかなか安定せず、売上は一進一退を続けている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ 初秋物の売行きが徐々にではあるが動いている。また、夏物のセール品でも、今着られる物に対しては購買意欲が貪欲な客が多く、売上も好調である。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・ 7月末に梅雨明けして猛暑となり、季節商品の水着、パラソル、帽子、手袋などのアイテムが売れ出している。また、夏物セール商品も婦人服、紳士服を中心に、衣料品から小物雑貨まで活発に動き、好調に推移している。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・ ここ数か月、来客数はそれほど伸びていないものの、3か月前は前年の売上も維持できないという状況にあったが、先月、今月は何とか維持している。商品によって売れたり売れなかったりすることは事実であるが、必要な物については購入してもらえるとという土壌はある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ 今年8月で、競合店が開店してから丸1年がたち、ようやく目標の数字を達成するようになってきている。5月から夜間営業として深夜1時半まで営業していることが売上に貢献している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・ 客が目的以外の商品を手に取り、購入につながるケースが多くなってきている。
		家電量販店（営業統括）	単価の動き	・ 天候不順のためエアコン関係の需要が伸び悩み気味で、昨年実績程度に終わっているものの、デジタル家電を中心に販売単価が上昇している。
		家電量販店（統括）	来客数の動き	・ 8月に入り、エアコン、冷蔵庫が好調である。猛暑の影響で来客数が増加している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 団体旅行の見積依頼が非常に多くなってきている。通常であれば電話の本数が減るお盆の時期も電話が鳴りやまない。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・ 加入者伸び率が、先月と比較して増加している。
		ゴルフ練習場（従業員）	販売量の動き	・ イベントでボール前売り券の販売促進会をしたところ、高額カードが良く売れている。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・ 駅前の主力店舗では、朝、昼、夜と少しずつ来客数が増加している。特に、ピークの夕方から夜8時ごろに10～15%くらい増えている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ 客単価が10%程度上昇している。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ 例年8月は来場者及び販売量共に落ち込むが、今年は金利上昇や住宅ローン控除の優遇減少、近い将来の消費税率上昇が現実味を帯び、購入の前倒しが起こり、来場者、販売量共に増加している。		
変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・ 浴衣の販売は、先月は雨にたたられて販売数量、単価共に低下したが、8月は若干遅まきではあるが数量は前年比で回復している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・ 8月第1週は好天に恵まれ、各地域で盆踊りが行われ、生ビールの売行きが良好である。しかし、自治会によっては踊り手の高齢化が進み、他の催事に切り替えたところもある。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	来客数の動き	・ 東京は景気が良いなどと言っているが、地方の町はひどい。商店街の同業の靴屋も2店廃業し、人通りも全然回復していない。
		一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	お客様の様子	・ レジャー物、特に海外旅行用のケース等の動きが非常に良く、例年と異なり1～2割ほど単価が高いものが動いている。しかし、一般品、身の回り品の動きは非常に悪く、シビアに買物がなされている。ギフト需要は相変わらず好調で、単価は2割ほど上昇している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔C D〕(営業担当)	お客様の様子	・来客数は増加しているものの、まとめ買いは少なく、全体としては昨年並みである。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	販売量の動き	・8月は帰省ギフトの時期であるが、1世帯当たりの買上点数が減少している。大口の買上があるため、昨年並みの売上を確保することはできているものの、来客数の減少が続いている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・夏物商戦は、ここにきて夏物衣料が前年の水準を何とかクリアでき、しかもビヤガーデンは前年比110%と2けた増となっているものの、全体では前年比で微増止まりである。
		百貨店(販売管理担当)	販売量の動き	・衣料品の苦戦を食品や雑貨でカバーし、前年並みで推移している。お盆後に急に気温が上がったため、秋物に切り替えているブランドは苦戦している一方で、セールを積み込んだブランドは好調である。お盆休みが長く帰省客も多いせいか、お盆前の食品の売上は前年比107%である。
		百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・生鮮品や総菜等の日常的な食品や、紳士、婦人ファッションは比較的堅調に推移しているが、宝飾、高級ブランド品が苦戦している。ユーロ高による価格改定が若干影響している。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数は、前年同月比98~100%と横ばいで推移している。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・暑さの影響で、飲料等夏場に強い商品の売上が伸びているが、7月後半の天候不順による青果物の相場の乱れから、店舗による価格の差が大きく、販売数に若干の影響がある。
		スーパー(統括)	お客様の様子	・客の買物動向は、広告商品や目玉商品、価格訴求型商品については非常に反応が良いが、その他の商品については、高額商品などにはなかなか手を出してくれない。
		スーパー(仕入担当)	販売量の動き	・冷夏と集中豪雨の影響で、青果物は相場高となり、売上高は昨年をクリアしているものの利益が圧迫されている。夏場に大きく需要が伸びる飲料、麺類、アイス等が1割強落ち込んでいる。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・来客数は減少し続けているものの、1人当たりの購入数は1~2点増加している。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・月の前半が前年よりも3%ほど悪かったが、20日過ぎから少し回復してきており、前年を何とかクリアできるかという状況である。客の様子は今までとは異なるが、販売量は8月全体で変わらない。
		家電量販店(店員)	来客数の動き	・ここ1~3か月を振り返ってみると、大きな動きが見られず、上がったたり下がったりの繰り返しでプラスマイナスゼロの表現をした方がいいのかもしれない。しかし、量販店では単価が低下してきているため、販売量を増やさない限り現状は厳しい。
		乗用車販売店(営業担当)	お客様の様子	・客は、3~4軒のいろいろな店で、同じ車種でも一番安いところで買い求めようとしている。
		乗用車販売店(渉外担当)	販売量の動き	・8月の新車販売は、予算達成率88.4%、前年伸張率1%の見込みである。中古車販売は、予算達成率86.2%。前年伸張率マイナス10.7%の見込みと良くない。7月から受注が始まった高級車の動きも鈍い。
		乗用車販売店(店長)	単価の動き	・目標台数は確保しているが、原油高騰の折、販売の多くは、低燃費車やコンパクトカーの低価格車である。
		住関連専門店(統括)	販売量の動き	・販売量はそれほど動いておらず、出荷額もそれほど変わっていない。
		その他専門店〔眼鏡〕(店員)	来客数の動き	・厳しい状況に変わりはないが、催事など販促内容によっては客の反応もあり、集客に結び付き数字にも現れている。
		その他専門店〔燃料〕(売場主任)	お客様の様子	・今月からガソリンや軽油が6~7円値上がりしたため、数量指定や金額指定を行う客が増加している。なお、収益に関しては、価格に転嫁できたのは今回の値上がり分のみであり、今年始めの1円~1円50銭の値上げ分の負担額がかなり大きくなっているため、全体として利益が出るところまではいっていない。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・複数の客の来店が少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・今まで個人利用での慶弔関係の受注が増えていたが、この夏は伸び率が低迷している。		
		タクシー運転手	お客様の様子	・当業界も雇用状態が良くなってきており、なかなか乗務員が集まらないため、稼働率の低下によって売上は2～3%の前年比増であるものの、あまり良くない。		
		タクシー運転手	単価の動き	・短距離が多く、遠距離が少ない。特に雨の日は顕著に表れている。		
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・プライマリー電話は好調だが、インターネットテレビが伸び悩んでいる。		
		その他レジャー施設【アミューズメント】（職員）	販売量の動き	・アミューズメントスペースでは、1人当たりの使用料金が増加している。エアコンのきいた環境で滞在時間が少し長くなっているのも関係している。		
		設計事務所（経営者）	単価の動き	・この3か月ぐらい、建設現場の違法駐車取締り強化やガソリン代の値上げのため、経費が必要以上にかかり、意外に収益につながらない。		
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・大企業あるいは業種によっては景気が回復しつつあるように報道されているが、総合建設業、不動産デベロッパー業の中小企業においては、まだ景気は回復していない。住宅の受注、販売共に、価格も販売量も低迷状況が続いている。		
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・8月は夏休みの関係もあり、土地も建物も大きな動きはない。あいかわらず客は予算にシビアで数社見積を取り、最終決断に時間を掛けている。		
		その他住宅【住宅資材】（営業）	お客様の様子	・駆け込み需要で、先行手配していた物の調整があるが、客の荷動きはそれ程変わっておらず、調子が良い。		
		やや悪くなっている		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・購買態度がますます慎重になってきている。
				百貨店（広報担当）	お客様の様子	・宝飾品、高級時計、美術品などの動きが3か月前に比べて鈍化してきている。また、ファッション商品も目立ったトレンドの変化がなく、まとめ買いが少ない状況が続いている。特に、季節の入口で大量に購入するファッションリーダーの動きが鈍いため、売れ筋の把握が難しい。
				百貨店（営業企画担当）	競争相手の様子	・夏休みに入り、来客数が前年同月比で96%と激減している。近隣にできたショッピングセンターは映画館などを併設しており、消費の矛先がモノでなくコトに移ってきている。
				コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上高は前年同月比90%前後で推移している。特に、暑い日が続いたことに加え、異業種と同じパイを奪い合っている中食の弁当や総菜の落ち込みが激しく、改善の兆しが見られない。
コンビニ（経営者）	販売量の動き			・業者が多すぎる。近隣に大型店が2、3軒開店している。		
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子			・重税感があり収入が減っているため、余分な買物をしなくなっている。特別な買物も、かなり吟味している。		
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子			・天候に大きく左右され、客の動きが鈍い。夏物の消化も悪く在庫状況に懸念がある。顧客の来店頻度も悪く、買上に結び付いても客単価が下落している。		
家電量販店（経営者）	販売量の動き			・けん引役となる部門が少ない。6月まで好調であったAV関連がサッカーワールドカップ後、販売台数がやや低迷し、単価の下落が続いている。また台数、単価共に好調であったエアコンや冷蔵庫も、このところ一時の勢いが失われつつある。		
家電量販店（店員）	販売量の動き			・客がなかなか買いに来てくれない状況である。家庭用家電製品の需要は一巡しており、買い増しや買い換えも少ない。		
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き			・昨年に比べて、全体的に高級自動車は若干需要の減退がみられる。		
乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子			・トラック関係は環境規制によって、3年前に相当台替需要が見込まれた。その時は何とか乗り越えたが、今回は客の何社かは燃料代上昇により売上が赤字に転じ、1社は倒産している。燃料高騰の折、景気は下向きになっている。		
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き			・8月という特別な月とはいえ、昨年より販売台数が減少している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ドラッグストア] (経営者)	競争相手の様子	・今月に入り、暑くなっても夏物商材の売行きが芳しくない。競合店の増加により来客数が減少しているため、全体の売上が10%減少している。新たな企画を進行予定ではあるが、減少した分をすべて戻すには至らない。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・リピーターの客、特に建築関係の客足が遠のいている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・以前は23時を過ぎると乗り場にかなりの人が並んだが、最近では24時を過ぎないとあまり並ぶことがない。
		通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・問い合わせ数や加入数が減少している。通年であれば、お盆休み前後が多少落ちる程度であるが、今月は数字の落ち込みが顕著である。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・新しいサービスや複合サービス、割引等は一部関心がもたれ、問い合わせ等も多いものの、全体的には契約件数は増加していない。
	悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・都内の下町商店街は、夕飯時に客が買物に来るのみで、通常の昼間は閑散としている。景気は下向いている。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・前年比を大幅に割り込んでいる。
		その他小売 [生鮮魚介卸売] (営業)	単価の動き	・当該業種は物流の枠から外れつつある。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・景気が良くなっているといわれるが、飲食店、サービス業の分野にはまだ波及していない。来客数は引き続き減少している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は夏休みで人が東京から出て行ってしまったため、都内のサービス業は全般的に悪い。同様に、タクシーも暇である。8月は毎年悪いものの、今年は特に悪い。
設計事務所 (所長)		競争相手の様子	・景気は足元で非常に下向いているため、同業他社との価格競争が激化している。	
企業動向関連	良くなっている	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・景気は良くなっているものの、金利の先行き上昇からくる駆け込み受注と思われる。
		不動産業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注、販売共に増加傾向にある。
	やや良くなっている	出版・印刷・同関連産業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・従来は売上数が1、2個程度であった、かなり金額の高いゴム印が、今月は納入している企業から4、5個程度出ている。
		建設業 (営業担当)	取引先の様子	・地価の上昇や原油の高騰に連鎖して、流通や資材の価格が上昇し始めており、景気回復が少しずつではあるが進んでいる。
		通信業 (企画担当)	受注量や販売量の動き	・昨年に比べ受注量が上がってきている。徐々に回復の兆しが見えている。
		税理士	取引先の様子	・顧問先の製造業や建設業では、一時期ひん死の状態であったところがまた盛り返ってきている。腕の良い特殊な技術を持った建設屋には、現在仕事がこなさきれないほど入っている。
		その他サービス業 [ディスプレイ] (経営者)	受注量や販売量の動き	・新規受注が増加している。
	変わらない	繊維工業 (経営者)	取引先の様子	・受注、売行きが全く良くない。
		建設業 (経営者)	競争相手の様子	・景気は良くなりつつあるのかもしれないが、材料の高騰により単価に見合わないし、職人がいない。建設現場は都内や繁華街ではよく見られるが、地方ではあまり見られない。
		建設業 (経理担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注高、完工高は伸びているものの、競争が激しく原材料の分まで受注単価に反映できないため、利益は横ばいである。1現場当たりの利益率は低下している。
輸送業 (経営者)		取引先の様子	・我々零細企業は景気回復を全く感じられない。現在は、発注量に大変波があり、出たかと思うと続かず、すぐに終わってしまう。	
輸送業 (経営者)		受注価格や販売価格の動き	・運送業では、軽油の高騰を料金に転嫁することができない状況にあるため、販売価格は上昇していない。	
金融業 (審査担当)		取引先の様子	・雇用関係が改善しているためか、取引先企業が従業員を募集しても人が集まりにくくなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（支店長）	取引先の様子	・各取引先の売上は徐々に回復傾向にあるが、費用の面で、運送業ではガソリン代の高騰、製造業では材料の高騰がかなり響いている。景気はまだ回復していない。
		金融業（渉外・預金担当）	受注量や販売量の動き	・全体の受注量が抑えられており少ない。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・相変わらず、都心の駅近ビルに対する需要の根強さは衰えず、テナントの入居希望申込に応じられない。
		社会保険労務士	取引先の様子	・資金繰りの厳しい会社が多く見受けられるとともに、返済不要の助成金に興味を示す会社が多い。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先工場の稼働率が上昇し、受注量も若干増えているものの、価格競争が激化しており全体の売上に変化はない。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・得意先からの発注依頼が非常に減少している。
			受注価格や販売価格の動き	・客の棚卸しやお盆休みによる発注量の減少によって、売上が3割ほど減少していることに加えて、客のコストダウン要求と原油高騰で材料値上げが続き、7～8月は赤字が出ている。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・見積件数が減っており、今までの仕事量も減少している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量がこのところ平均して減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・石油の高騰と、アルミ、金属関係材料の約20～30%の値上がりも響いているが、引き合いに対して値上げをすると契約が思うように進まないため、見通しは悪くなっている。
電気機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・スーパーマーケット業界や食品流通業界の不振のため、夏場にもかかわらず低温流通関連の設備投資が低調である。	
輸送業（財務・経理担当）		それ以外	・燃料高騰が更に進み、運賃に反映できていない同業他社もこれから早急に対策を考えなければ大変なことになる。	
経営コンサルタント		取引先の様子	・原油高の影響を受けている事業所があるため、やや悪くなっている。	
悪くなっている	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量とも最悪の状態である。	
	輸送業（総務担当）	それ以外	・軽油価格の高騰のため運送経費は予想をはるかに超え、厳しい経営状況である。	
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（広報担当）	求人数の動き	・当社は新聞の求人広告を取り扱っているが、例年暇であるはずの8月に、今年は問い合わせが殺到して満杯御礼を連発し、お盆も返上の忙しさである。同業他社も、お盆休みはなかったようである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の正社員採用の求人数がかなり増加してきている。
	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・派遣を多く受け入れている企業が、正社員比率が落ちているため一部を正社員にしたいと言ってくるケースが、何社か続けて出てきている。	
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・規制緩和による銀行の投資信託窓口販売の強化に伴う受注や、通信、ブランド販売の業務に伴う受注が増加している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・来期新卒採用の企画が進行中だが、昨年との明らかな違いは女子学生の積極的な採用である。女性社員の活用も含め、提案を求められることが多くなっている。そのための別予算化が進んでいるようである。	
	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・求人広告掲載に関する問い合わせ件数が増えている。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者が減少しているなかで、30代後半が前年同月比で15%増加し、自己都合離職者が20%増加している。パートタイム希望者も減少しており、正社員への転職を求めている模様である。また、高齢者雇用安定法改正に伴い、60歳前半が20%減少しており、定年退職も20%以上減少している。	
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・企業からの新たな求人案件が継続的に発生している。また、優れた人材がいればポジションを問わず採用したいという要望が出てきている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・ここ数年求人市場を引っ張ってきた自動車関連企業の求人は、やや落ち着いてきた感があるが、求人企業のすそ野が広がり、ほぼすべての業種で求人数が増加している。	
		学校〔短期大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・昨年と違って、周辺企業からの求人問い合わせが来るようになっている。	
		学校〔専修学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人獲得件数が前年同月比で20%ほど多くなっている。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年8月は求人数が減るが、今年はあまり増減がない。しかし、正社員でない雇用形態が多い。	
		人材派遣会社（支店長）	雇用形態の様子	・パート、アルバイト採用で苦戦している企業が増えてきている。思うように採用ができないため、派遣の依頼へつなげるケースが多い。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比16.6%増加、うち一般求人は34.8%増加している。正規社員へ移行する傾向が若干表れてきたようではあるが、正規雇用率の高い第2次産業の求人は低調である。	
			職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数は引き続き減少しており、一般求職者が前年同月比で8.5%減、パート求職者が同12.7%減となっている。また、新規求職者に占める在職者の比率は、同3.0%減少、自己都合離職者は同6.4%増加している。特に40歳未満の自己都合離職者の増加が目立っている。
			職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人倍率が上昇し、求人の数が増えているが、それに伴う就職件数はあまり増加していない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・都心部のマンションやオフィスビル商業施設などが急増し、開業も相次いでおり、それに伴う求人も活発であるものの、募集内容は店舗のパート、アルバイトや清掃などが主で、景気上昇のけん引力にはなっていない。	
	悪くなっている	-	-	-	

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・上陸する台風もなく恵まれた条件の夏休みで、この地域への観光客数は前年比で10%以上も増加している。土産品の購買意欲も、それ以上の伸びを示している。ガソリン価格の高騰で懸念されたマイカー客の減少もなく、上々である。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は6%ほど増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏前半は不安定な天候が続き心配したが、お盆前から夏らしい暑さになり、それに合わせて来客数も増加している。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・既存店の来客数、客単価とも伸びてきている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・お盆は里帰りの家族連れ客が多く、それなりに売上につながっている。現在は改装時期で通常なら売上は減るが、平日でも午後や会社帰りの夕方に来店する客が増えてきており、売上を維持している。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・セール品よりも定番商品の動きが良い。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・客単価は低下しているが、中元やお盆期間にそれなりの販売量がある。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・販売点数は、既存店で前年同月比106%、来客数も105%と伸長している。競合他社でも良好に推移している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候に恵まれたこともあり、来客数は愛知万博などがあつた前年を上回っている。人の動きが活発である。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・売上は前年比5%減と前年割れが続いているが、3か月前と比べると客単価が少し上昇し、売上はやや改善している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・低燃費の軽自動車が目玉され、客の購入意欲は高まっている。ただし、軽自動車は利幅が少なく、競合ディーラーが周辺に多いことも悩みの種である。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・特別良いというわけではないが、雰囲気的にはやや良い傾向にある。今月の販売量もまずまずである。
		観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・愛知万博が開催された前年とは比較にならないが、本年度で初めて、一昨年を上回る来客数を確保している。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・客室稼働率は、良い状態が続いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・旅行や祭り、学生のスポーツ大会など、タクシーを利用する客が多く、とても忙しい。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・天候に恵まれたためか、来客数の動きは良くなってきている。
		美顔美容室(経営者)	来客数の動き	・夏休み期間中でお盆休みにもかかわらず、来客数は多い。
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・自動車産業が好調のため、三河地方では、シングルタイプのアパートや賃貸マンションの建築が好調に推移している。一方、ファミリータイプの2LDK、3DKの空物件は少なく、古い建物でも賃料の高騰を招いている。
		住宅販売会社 (企画担当)	お客様の様子	・ここ2、3か月は客からの積極的な問い合わせなどが増え、契約数も増加している。
		変わらない		商店街(代表者)
一般小売店[生花](経営者)	販売量の動き			・お盆の販売量は昨年に比べ2割ほど伸びているが、その他の時期はあまり伸びていない。生活に必要なものは控える家庭が増えている。
一般小売店[薬局](経営者)	お客様の様子			・地方の小規模小売店では、地場産業の不振といった地元の景気に左右される。客は相変わらず、必要な物は買っても余分な物は買わない。
一般小売店[時計](経営者)	来客数の動き			・来客数だけでなく、客単価も改善していない。
一般小売店[酒](経営者)	お客様の様子			・連日晴天で猛暑が続いているなか、人出は多いが、暑さのせいか中高年層がやや少ない。身の回り品、日用品以外の物は買わない人が多く、購買客はやや少ない。
百貨店(売場主任)	お客様の様子			・バーゲンのまとめ買いが少なく、定番商品の動きも鈍い。購入する雰囲気の客は少なく、ただ見ているだけの客が多い。
百貨店(企画担当)	販売量の動き			・セール商品の動きはまずまずであるが、秋冬衣料の動きが悪く、苦戦している。
百貨店(企画担当)	お客様の様子			・バーゲンなどの売行きは非常に好調であるが、全体としては慎重に品定めして買物する様子が見られる。
スーパー(経営者)	単価の動き			・石油価格の高騰により、かまぼこを中心に練り製品の仕入れ値が上がっているが、店頭で値上げして販売することは難しい。スーパー業界は相変わらず価格競争の中でやっているため、難しい状況が続いている。
スーパー(経営者)	お客様の様子			・客の様子を見ると、野菜や果物などの商品の値上がりがあれば、他の値打ちな野菜、果物から選び、うまく購入している。原油価格の高騰や原材料費の値上がりでデフレは止まり、店の売上も久しぶりに下げ止まっているが、実質的には変わっていない。
スーパー(経営者)	来客数の動き			・各方面の競合関係が定着してきて、来客数の動きは変化がなくなっている。販売量の動きもさほど変化がない。
スーパー(店長)	単価の動き			・客単価は回復傾向にあるが、野菜類の相場高や、原油価格の高騰に伴う水産物価格の上昇が影響している。購買力が実質的に回復しているわけではない。
スーパー(仕入担当)	来客数の動き			・売上の前年比は98%前後で推移している。来客数もほぼ同様の傾向である。 ・中元セールは、前年比10%減少と厳しい結果になっている。消費者は、中元品でもブランド品より安い物を求める傾向にある。また同業各社も、送料無料や早期予約割引など、利益率を圧迫させてでも中元客を獲得しようとしている。他方で季節セールは、前年をわずかに上回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	競争相手の様子	・数か月前まで非常に多かった同業者の閉店や廃業は、最近はまだ聞かれない。競争相手の新規開店も、この数か月間は当地区ではない。ようやく落ち着いてきている。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・売上の前年割れは継続している。消費者に購買意欲はあるが、余分な物は購入しない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月に天候が悪かった反動で、8月は昨年と比べても来客数は増えている。特に郊外店ではその傾向が顕著である。ただし、天候に影響されている部分が大きいので、景気が本格的に良くなっているというわけではない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・客は目的の商品しか買わず、余分な物を買わない。
		コンビニ（売場担当）	販売量の動き	・昨年の愛知万博の反動による落ち込みは、徐々に収束してきている。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・同業他社の動き、他業態との競合度をみても、大きな変化はない。
		衣料品専門店（企画担当）	販売量の動き	・販売量の総量は変わっていない。ただし、企業、店舗によってばらつきがみられる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	それ以外	・仕入れ、売上、販売量とも減少するなか、ガソリン価格の値上げに伴い運送費が上がるという悪循環に陥っている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・夏場前半は天候不順で、季節物の動きが悪い。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・洗濯機や冷蔵庫などの生活必需品は好調であるが、パソコンや薄型テレビの買換えが不調である。
		自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・イベントやセール企画に人が集まりにくくなっており、売上に繋がっていない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・6月中旬以降のボーナス需要に期待をかけていたが、ガソリン価格の高騰の影響からか、盛り上がりは欠いている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・原油価格の高騰に伴い、小型車の販売台数が増えている。ただし、販売競争が激化していることもあり、1台当たりの単価は悪化している。高額車両の販売量は激減している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・盆休み前は非常に悪かったが、盆休み後はいろいろな成果が出ている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・昨年の愛知万博による反動減を除いても、週末の個人客、家族客の伸びは鈍化している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏になっても来客数は増加していない。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年はお盆の天気が良く行楽地に人が流れたせいか、予定どおりの来客数には至っていない。
		その他飲食[仕出し]（経営者）	それ以外	・原油価格の高騰などの影響が、原材料価格に徐々に始めている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年は愛知万博に客が流れていたが、今年は県外客が多く、盛り返している。ただし、地元客による会食需要が伸びていない。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊客の単価は、3か月前と比べるとあまり変化はないが、愛知万博前と比べると上昇している。ただし、宴会やレストランにお金をかけない傾向が定着しており、良いという雰囲気はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・消費者はお金の使い方がよりシビアになってきている。納得できないと利用しない傾向が、ますます出てきている。情報や流行に左右される面もある一方で、以前のような衝動買いは減っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今月は天候に恵まれ、スポーツ部門の利用は多い。しかし宿泊部門の利用は減少している。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・4～6月期は需要が顕著に増加していたが、7～8月期は減少している。
		旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・夏の商戦が終わり秋の商戦に入るが、立ち上がりは少し鈍い。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・比較的動いているが、衝動的ではなく、じっくり考えている様子で、価格に対しても敏感である。割安でない商品は動かない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏休み間際に駆け込みで来客する例が多くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・原油価格の高騰は、航空業界でもかなり深刻な問題である。旅行者は旅行代金以外に、燃料サーチャージという税金で高騰分を支払わなくてはならず、トラブルが絶えない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・前月から引き続き、新規契約数は落ち込んでおり、解約数も多くなっている。
		通信会社（開発担当）	販売量の動き	・光ファイバー通信サービスの契約数は上限に達しており、一定で推移している。
		テーマパーク（総務担当）	来客数の動き	・来場者数は前年と変わらない。
		観光名所（案内係）	お客様の様子	・観光客のなかでお金を使う人が非常に少なく、節約志向が強い。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・来客数はほぼ目標どおりで、前年以上となっているが、客単価は伸びていない。全体的には良くなっていない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・非常に暑い日が続く、特に昼間の一番暑い時間帯の来客数がかかり落ち込んでいる。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・暑いせい、わずかながら客の回転が良い。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・暑さのせいで昼間は外出しない人が多く、乗用車で来店客以外は足が遠のいている。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・競争相手も含め、現状維持である。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・和菓子屋にとってお盆の時期は夏場の唯一の繁忙期であるが、前年と比べて繁忙期間は短期化しており、客当たりの購入量も少なくなっている。そのため製造販売量は、例年よりかなり減っている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は伸びているが、客単価が低いため、販売量、売上とも伸びていない。前年よりやや落ち込んでいる状況である。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	来客数の動き	・競合店が近隣にオープンし、その影響を受けている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・気温の高い日が月後半まで続き、秋物商材の動きが鈍く、売上は全体的に伸び悩んでいる。数か月前は天候要因にかかわらず売上は好調に推移していたため、客の消費意欲は低下している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・原油価格の高騰により商品価格が高くなっており、販売量は伸びていない。
		スーパー（従業員）	販売量の動き	・5～7月の売上は前年実績を上回っていたが、今月は下回っている。
		衣料品専門店（売場担当）	販売量の動き	・8月前半は旅行者や旅行準備客の買物により販売量は増加しているが、お盆を過ぎたところから減少気味で、8月の販売量は前年を下回っている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・燃料費の高騰から、小型車や軽自動車の購入が多いため、収益的に苦しい。ミニバン車種でも排気量2000cc以下が多い。販売は全体的に低調である。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	単価の動き	・来客数の割には、売上は伸びていない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今月前半はイベントも開催し来客数は多かったが、お盆明けから非常に暇になっている。電話をかけて呼ばないと、誰も来ない日も数日ある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・お盆前の時期には多少良くなっていると思っていたが、お盆が過ぎたら、また前年のような悪い状態に戻ってしまっている。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・通信、インターネットの購入申込が以前より減少しており、売上は前月より減少している。
		パチンコ店（店長）	来客数の動き	・スロットマシンの撤去や風俗営業法の改正によって、施設側のサービス体制が難しくなり、客が求めるサービスを提供できなくなっている。そのため、客の来店回数は減少している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・暑くなって忙しいはずなのに、髪が伸びている客でも来店しない。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・美容院が増え競争が厳しくなる一方で、若者は自分でヘアカラーを買い、染めるため、美容院に来ず、やや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	悪くなっている	その他サービス [介護サービス] (職員)	お客様の様子	・介護保険法の改正を受けて、保険適用福祉用具の質と紹介件数が減っており、売上は減少している。加えて、返却された福祉用具の保管に新たなコストが発生している。	
		設計事務所 (営業担当)	それ以外	・仕事量の減少に伴い、事務所は9月で閉鎖になる。	
企業 動向 関連	良くなっている				
		やや良くなっている	紙加工品 [段ボール] 製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注単価や販売価格は非常に厳しいが、受注量や販売量の動きは堅調である。
	変わらない		窯業・土石製品製造業 (社員)	受注量や販売量の動き	・取引先の生産量が増加しており、受注は3か月前に比べて数量ベースで2割ほど増えている。
			建設業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・地価が上昇しているにもかかわらず、堅調に推移している。一方、原油価格の高騰と関連し、材料費が上昇している。
			金融業 (企画担当)	取引先の様子	・金利が上昇局面にあることも影響してか、法人、個人とも不動産購入意欲は強く、引き続き不動産は動いている。
			行政書士	それ以外	・貨物の動きが少し活発になってきている。
			会計事務所 (社会保険労務士)	取引先の様子	・資金に余裕がある顧問先企業が増えており、新規に保険を掛けたり、従業員の退職金の積立てを検討し始める企業が多い。
			一般機械器具製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・新しい取引先の仕事が少しずつ入り始めている。
			電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・売上は増加傾向にあるが、素材、副資材等の価格上昇分が上乗せされているだけで、実態的には変化していない。受注量も変わっていない。
			電気機械器具製造業 (企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・取引先では業種によって好不調の差があり、全体としては横ばいである。
			電気機械器具製造業 (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・価格競争は依然として続いているが、各社とも適正な利益を乗せた上での競争であり、健全な市場環境になっている。
			輸送用機械器具製造業 (統括)	受注量や販売量の動き	・主力取引先が再建中にあり、徐々に回復してはいるが、もうしばらく時間が必要である。
			輸送用機械器具製造業 (総務経理担当)	取引先の様子	・客からの価格、数量などの注文、値上げ交渉などの内容は、3か月前と比べて全く変化がない。
			輸送用機械器具製造業 (経理担当)	取引先の様子	・売上は、引き続き好調である。
			輸送業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・荷物量は前年比でほぼ横ばいであるが、運賃単価は低下している。燃料費が高騰し輸送コストが上昇するなか、物流業者は運賃に転嫁したいところであるが、逆に低下しているのが実態である。
	輸送業 (エリア担当)	受注量や販売量の動き	・トラック貨物の総台数は、荷主によってばらつきはあるが、ほとんど変わっていない。		
	輸送業 (エリア担当)	受注量や販売量の動き	・学校の夏休み期間は、転勤に伴う引っ越し作業の受注件数が増える時期であるが、今年は前年度割れしている。企業活動が活発でない証拠で、景気は上向いていない。		
	輸送業 (エリア担当)	受注量や販売量の動き	・貨物量は、前年に比べて増えていない。		
	通信業 (営業担当)	取引先の様子	・効果が明確なものにしか投資しない企業が多い。		
	金融業 (決算予算担当)	それ以外	・個人消費部門は、前年比5%超で伸びている。ただし、この数か月間は、前年比でプラスマイナスを繰り返している。		
	広告代理店 (制作担当)	取引先の様子	・企画広告件数は、新規が少し増えているが、継続が少し減少しており、全体的には変わらない。		
	経営コンサルタント	取引先の様子	・マンションを中心に動きは活発である。特に駅前の徒歩圏のマンションの売行きが好調である。しかし、郊外の住宅地は値下がりが続いている。		
	その他非製造業 [ソフト開発] (経営者)	受注量や販売量の動き	・非常に多忙であるが、受注量はあまり増えておらず、横ばいである。設備投資に慎重な姿勢が出ている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上がり分を、製品に転嫁できていない。また、受注量、販売量とも減少している。
		化学工業（企画担当）	それ以外	・原油価格の高騰による影響が、各方面に及んでいる。
		金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・複数の仕入先が、原材料価格を値上げしている。その一方で仕入先からは、荷動きが悪いので商売にならないという話も聞く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	競争相手の様子	・原油価格の高騰の影響を受け、競合企業が自家発電事業から撤退し、当社の事業分野に参入している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売先のパチンコ業界では、スロットマシンの規制強化の影響を受け、設備投資が少なくなっている。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・原油価格の高騰による影響が大きい。特に運送業、石油製品を扱う製造業が影響を受けている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	それ以外	・昨年度の受注増加率をベースに上期の予算を立てているが、実際には目標を達成できておらず、ショートしている。
	悪くなっている	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内需要が伸びないなか、中小企業の受注量は圧倒的に減っている。大手企業では設備や生産を内製化する傾向が強くなっており、小企業への外注を減らしていることも影響している。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料費の高騰分を、販売価格に転嫁することができない状況が続いている。
		公認会計士	それ以外	・顧客企業の収益性は、原油価格、人件費等のコスト高により、大幅に低下している。
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・金融機関、特に銀行では、かつてリストラした正社員の補充を始めている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・メーカーからの派遣依頼が増加している。最近では、業務繁忙な中小企業から、未経験者の派遣依頼も増えている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の人材需要は全体的に活発である。短期間の新規注文は減少し、比較的長期の注文比率が高くなっている。
		職業安定所（所長）	周辺企業の様子	・管内企業数社に対して実施している雇用に関するヒアリング調査によると、人手不足は一段と進んでいる。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・求人数は相変わらず増え続けている。これに対して、登録者数が追いつかない。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣、人材紹介とも、求人案件数は少し減少傾向が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	雇用形態の様子	・製造業では正社員募集が盛んである。新卒採用が順調でないため、即戦力になる中途採用が増えている。一方、流通や小売関係では正社員募集は少なく、パートなど軽雇用が中心である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比の増加幅が縮小している。ただし、情報通信業、食料品製造業では、増加の動きがみられる。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は増加しているが、派遣や請負求人が目立つ。正社員求人は2割近く減少しており、製造業では直接雇用の求人は全体の3分の1になっている。非正社員の増加は賃金抑制とつながっており、サラリーマンの収入も停滞している。企業整理も若干増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数は比較的高い水準で推移しているものの、大きな変動はない。有効求職者数は、48か月連続で前年比プラスである。会社都合による離職者数が6か月連続で前年を上回っており、在職の求職者数も21か月連続で増加している。現在の勤務先の雇用条件に対する不満や、将来への不安がうかがえる。
		職業安定所（管理部門担当）	雇用形態の様子	・有効求人倍率は引き続き高水準を維持しており、求職関係の指標も落ち着いた動きを示している。一方で、非正社員化、間接雇用化はさらに進行しており、求人求職のミスマッチは依然として多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人企業は、採用活動が厳しいことを前提に計画を立てており、大きな動きはない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・盆休み前後の広告出稿が例年より減少している。また、広告の集中出稿日である月曜日が前年より1回少ないこともマイナス要因となり、求人広告の売上は前年割れしている。
	悪くなっている	-	-	-

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年とほとんど変わらないが、客単価がわずかながら上昇している。特に生鮮食料品のなかで高額商品の動きが目立つ。
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏のバーゲン全体を総括すると、客の商品選択に迷いがなくなったため、接客時間の短縮化傾向が見られ、従来の3分の2程度になっている。また本物志向は相変わらず顕著で、決して安くはないハンドメイドのハンドバッグが前年の2.5倍も売れている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ほとんどが真夏日で暑かったため、ワンピース、Tシャツ、ノースリーブのカットソーなど、洗濯に便利で着回しの利く商品が好調であった。特に3000円から1万円ぐらいのワンピースの売行きが突出した。後半には秋物商品もかなり入荷したため、ミセス客の来店も増加し、売上は前年比105%で推移した。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビの販売台数は以前に比べて緩やかな伸びであるが、好調に売れている。冷蔵庫、洗濯機などの白物家電も順調に推移した。全体としてお盆期間を含めて、売上は前年をコンスタントに上回った。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は今まで前年比102%台であったが、8月は107.3%と上昇した。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・来客数、売上とも前年を10%上回る状況で推移している。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・例年8、9月は売上のボトム期であるが、今年は前年を上回って推移している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・今月は例年どおりの天候に恵まれ、愛知万博の影響を受けた前年とは異なり、個人客を中心に利用客数がやや伸びた。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅特別減税の恩恵を期待する客の駆け込み案件が出てきた。
	変わらない	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年とあまり変わらない。客の様子は秋物商品をしっかり買う人と、セール商品を見てもなかなか購入につながらない人に二極化している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は回復してきた。買上点数も増加傾向にあるが、来客数は落ち着いている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・ホームセンター部門では夏のレジャー関連用品がよく売れたが、これは7月に不振であった反動とみられる。食品部門は猛暑の影響で飲料など限られた商品は売れたが、全体的な傾向は変わらない。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年並みである。石油の高騰により経費が増加している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は若干増加しているが、1人当たり販売量が若干減少しており、全体としては変わらない。
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・8月は好天に恵まれ、飲料、アイスクリーム、ビール類などが大変好調であった。売上ベースでも、前年に比べ5%増加した。しかし、主力のおにぎり、弁当、パンなどは前年を若干割る見込みである。商品によって、天候の影響が対照的に現れた月であった。	
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・お盆の帰省客の来店も例年になく少なく、盛り上がりには欠けた。		
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エアコンの売上は5～7月の売上不振による反動と厳しい残暑のため、前年比2けたの増加である。またテレビ、洗濯機も継続的に前年に比べ2けたの増加となっている。いずれも価格が高くて、客に欲しいと思わせる画期的な性能、機能を持つことで売上が増加した。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・ガソリンの高騰が続いており、当社の1000～1500ccクラスの小型車市場で軽自動車へのシフトが目立ってきている。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・相変わらずガソリン価格の高騰が続いており、自動車業界も軽四と小型車に傾注している状況は変わっていない。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年8月の売上が最も多いステーキ専門店は、過去10年で最高の売上を記録した。高価な銘柄牛やワインの売行きも好調である。一方、料亭部門は例年最も苦戦を強いられる夏であるが、今年は法事の個人客が2倍近くあり、売上を底上げした。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・梅雨明け後、夏休みらしい人出が戻ってきた。競合店の影響はあるものの、今年はお盆期間が長かったため、来客数は前年を超えた。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・夏休み期間中は家族を中心に個人客の動きが好調であった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・お盆前のタクシー利用客は何とか前年並みとなったが、お盆後は極端な前年割れとなった。県内のイベント会場には多くの人が繰り出したが、利用客はあまりなかった。
		その他レジャー施設(職員)	来客数の動き	・例年季節的に最盛期となる8月であるが、来場者数が減少した。特にお盆期間での減少が目立ったが、帰省客による利用が減ったようにみえる。
		住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・受注量は前年を下回り、客からは合い見積を求められるなど、競争が激化している。
		住宅販売会社 (総務担当)	お客様の様子	・イベントの集客はそこそこあるものの、営業に結び付かない客も多い。
	やや悪くなっている	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・大手百貨店の撤退後、来客数、売上、通行量のすべてにおいて中心商店街の数字が落ちている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・ガソリンの高騰や公共工事の減少などから、高級車の売行きは相変わらず厳しいが、比較的順調であったコンパクトカーにも陰りが見え出した。原因はやはり不透明な先行きを懸念しての買い控えである。
		自動車備品販売店 (従業員)	販売量の動き	・家電商品に押され、カー用品に対する支出額が少なくなっている。ガソリン高騰による省燃費用品については関心が高いが、単価が安いので売上減の歯止めにはなっていない。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・クラス会や団体の予約もなく、売上は前年の8割に終わった。店前の通りもひっそりした日が目立った。例年見られる取引先の創業記念日の予約申込みもなく、全体的に節約ムードが感じられる。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・ガソリン高騰の影響で、旅行を手控える傾向が見える。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・8月の予約進ちょく率は前年に比べ10%ほど低下している。9月の予約状況も前年同月の80%と低迷している。
タクシー運転手		来客数の動き	・今月は真夏日が続き、週末を中心に夜の街への人出はあったが、日中は極力外出を控えているため、タクシーの利用はさっぱりであった。ガソリン高騰の影響が、節約ムードも見られる。	
パチンコ店(店員)		単価の動き	・例年8月は売上の良い月であるが、今年は前年割れになった。	
悪くなっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・連日猛暑が続き、商店街を歩く人もまばらである。商店でも夏物商品の品薄状態が続き、売上は低迷している。
	住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・来客数、販売量、客単価とも悪くなっている。耐久消費財を扱う当業界は、勝ち組、負け組がはっきりしている。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般機械器具製造業(経営者)	それ以外	・取引先、競争相手のなかでも、特に同業他社の設備投資意欲は強く、更に上乘せ計画が進められている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・インターネットを目的とした光回線の導入は全体として陰りが見えてきたが、前月に続き、電話設備の更改が好調である。
金融業(融資担当)	受注量や販売量の動き	・ガソリンの値上げとともに、金利の引上げがいろいろ行われているが、この悪影響を心配する声はそれほど強くない。企業動向はまだ底固いものがある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	司法書士	取引先の様子	・住宅新築、会社設立、取締役増員といった依頼が多くなっている。
		食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新商品は伸長したが、既存商品の落ち込みも目立ち、総量的に変化はない。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・昨年の冬物商品が一掃されたため、これからの冬物の生産は多忙である。
	やや悪くなっている	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の高騰に伴う製品価格の一部値上げについて、取引先に打診しているが、なかなかうまくいっていない。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・産地では、プラスチック枠関係のメーカーは年明けごろまでの受注は既に埋まっているようであるが、メタル枠関係のメーカーは今までの材料費の高騰に加え、ここへ来て再び中国製商品の国内流入量が増えていることから仕事量が減少している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・建設業者数は多過ぎるため淘汰されるべきと言われるながらも、業者数はなかなか減っていなかった。しかし、最近ではわずかな負債額で倒産するケースが見受けられるようになり、いよいよ持ちこたえることが難しい局面になってきた。関連企業の連鎖倒産も懸念される。
		建設業（総務担当）	それ以外	・工事コストが増加傾向にあるなかで、受注価格競争は一段と激しくなり、採算ラインでの受注機会は更に厳しくなっている。
	悪くなっている	会計事務所（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・観光レジャー関連では利用客数はある程度確保できているが、1人当たりの消費金額が減少しているため、忙しい割には利益につながっていない。社会保険料等の負担増や原油関連経費の増加が重くのし掛かっている。
		-	-	-
	雇用関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年同月比103%の増加である。地元での求人は若干減っているが、東京や名古屋からの求人が増加している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・需要内容に対応できる、スキルのある登録者数が減っているため、クライアントは派遣利用に対し慎重になってきている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・最近では、パソコンを使う簡単な事務においても応募者のレベルがマッチせず、依然として人材不足状況が続いている。また、ケアマネジャーなど福祉関係の求人増が目につく。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は前年比で増加傾向が続いているが、一方減少傾向で推移してきた新規求職者数に下げ止まり感が見られる。
		職業安定所（職員）	それ以外	・数年ぶりに求人申込をする小規模事業所が増加傾向にあるが、賃金や労働条件は良いとはいえず、求職者は敬遠している。
やや悪くなっている		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・社員、アルバイトを含め、全体的な求人件数は前年比約15%減少している。
悪くなっている		-	-	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・8月としては過去最高の売上、来客数を記録した。特に、例年は落ち込む盆の期間の売上が今年は良かった。これには、地域の情報誌への記事掲載効果が大きかった。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・昼間が酷暑となったことで、早朝から深夜まで営業する店を増やしたところ、特に夕方5時以降の売上が非常に伸びた。また、盆の高額メニューも例年になく売行きが良く、客単価を押し上げた。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・6、7月は雨が多かったものの、8月は雨が少なかったため、暑さで飲料水を買って求める客が多く、売上が20%ほど増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
やや良くなっている		タクシー運転手	乗客数の動き	・気温が35度を超える日が多い猛暑となったことで、タクシーの利用が増加した。盆などで大型の休みがあった割に、平均売上も非常に良かった。	
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・マンション販売が非常に順調である。来場者数は増えていないものの、客の消費マインドが向上している傾向が顕著にみられる。	
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	販売量の動き	・今年上半期には抑制気味であった新築マンションの新規売出しが、若干増加傾向で推移しており、それに伴って販促用の広告量が増加傾向にある。	
			百貨店（企画担当）	販売量の動き	・夏物商材の売行きは、8月に入ってからの猛暑の影響で好調であった。
			スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買物の様子をみると、これまではまず価格に目が行く傾向が強かったものの、今は味の良い物や値打ちのある物であれば購入する傾向がみられる。
			スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が上昇しているほか、販売点数も増加気味であることから、家庭で良い商品を多く使うようになってきている。
			スーパー（経理担当）	販売量の動き	・盆の時期も売上は好調に推移しており、上半期を通して安定した動きとなっている。
			スーパー（経理担当）	販売量の動き	・全体的な販売量が非常に増加しており、既存店でみて前年比で好調な推移をみせている。節約志向であった客が、し好みも含めて購買意欲がおう盛になっている。
			コンビニ（店長）	販売量の動き	・既存店売上の前年比をみると、6月はマイナス1.0%、7月はマイナス3.3%、8月は22日現在でプラス2.5%となっている。7月はたばこの税率引上げや天候不順の影響で大きく前年を割り込んだものの、8月は猛暑などの影響で飲料を中心に好調である。
			衣料品専門店（営業・販売担当）	お客様の様子	・秋物スーツのオーダーの動き出しが例年よりも早い。
			その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・8月の中間決算に合わせて固定客を対象にダイレクトメールを発送した効果が出たほか、8月に入って厳しい暑さが続いたため、ドリンク類やビタミン剤などが活発に動き、買上点数、客単価が伸びた。
			観光型旅館（経営者）	単価の動き	・料理の追加注文の内容をみると、高額で、客のこだわりを感じるメニューが増えてきている。
			都市型ホテル（スタッフ）	乗客数の動き	・今月上旬には大阪での高校総体開催という特殊要因があり、稼働率が前年比で10%アップしたほか、販売単価が上昇した。下旬もビジネス客を中心に好調な推移となっている。また、レストランも夏休みのファミリー客を中心に来客数が大きく伸びた。一方、宴会は前年並みであるものの、盆休み時期のイベントが盛況となった。
			都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・全国高校総体の開催に伴って宿泊が増加しているほか、食事利用の増加などで宴会場やレストランが好調である。
			旅行代理店（営業担当）	乗客数の動き	・乗客数が順調に推移しているほか、特に海外旅行の予約が好調を維持している。
			タクシー運転手	それ以外	・異常な暑さにより短距離のタクシー利用者は増加したものの、長距離の利用者はまだまだ増えていない。
			住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・当社は販売量がさほど多くない企業であるが、今月は受注量や契約件数が増えた。
住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・商業地の地価上昇に伴って住宅地でも上昇がみられるものの、まだ市場は堅調な状態を維持している。			
変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・一時は良くなりかけたものの、結果的に販売量は例年どおりとなった。	
		商店街（代表者）	販売量の動き	・盆過ぎから急に売上が減少しており、月末も厳しい状況である。	
		一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・月の前半は7月の好調が続く形で、乗客数、販売量共にある程度良かったものの、帰省やレジャーで出費が増えたほか、猛暑の影響や例年以上に高校野球が人気となったことで、盆休みごろから人出が止まった。また、月の後半は更に厳しい状況であった。	
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・8月の後半は猛暑であったものの、夏物衣料は販売量が伸びず苦戦した。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	お客様の様子	・盆商戦については、その前後の数字が例年に比べて特に悪かった。例年は盆前に土産需要などがあって盛り上がるものの、今年は弱かった。家で肉を食べるよりも外食で楽しむ人が増えたのか、どの肉屋でもすき焼き需要が少なかったと聞いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・上質な流行品に対する高額な支払を何とも思わない客が増えている一方で、少しでも安く買おうとする客の動きにも変化はみられない。その背景として、収入の格差がかなり明確に感じられるようになってきた。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・生鮮食品では気温や天候の影響で魚の値段が上がっているため、売上全体としては前年の水準を維持するのが精一杯である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・紳士、子供関連商品の売上が前年比3%増と好調である。ただし、夏物衣料のバーゲン商品の好調には気温による効果が大い。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・残暑が厳しいこともあり、夏物バーゲンセールは衣料品を中心に好調が続いている。しかし、特選ブランドを中心とした秋物商戦の立ち上がりは前年を大幅に下回っている。さらに、食料品や和洋菓子なども低迷している。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・夏休みで子ども向けの催事を開催したところ、ファミリー客が多く来店したため、前年よりも入店客数が増加した。ただし、ほかの商品への波及効果は思ったほど大きくなく、依然として目的外の支出には慎重な様子がみられる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・秋冬物の早期受注の開始が年々早まり、高額ブランドの衣料品が8月半ばから売れ始めている。その一方で、猛暑により夏物商材の需要が増えたものの、売上を大幅に押し上げるほどでもなかった。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・前月に続き、プレステージゾーンを中心に高額品の動きが芳しくない。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・食料品などの日用品は、天候不順であった先月よりも動きは良いものの、ファッション関係は前年の水準にはまだまだ届いていない。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・6、7月は長雨で、屋上ピヤガーデンは開店休業状態であったものの、8月は天候に恵まれて前年を大きく上回っており、今までの不振を取り戻す勢いで推移している。また、夏物商材もクリアランスセールを中心に好調に推移し、前年実績は確実に確保できる状況である。ただし、今までの不振を取り戻すほどの勢いはなく、今期の売上については前年実績を確保するのに苦しんでいる。
		百貨店（統括）	販売量の動き	・値引き商品の売行きが良いなど、3か月前に比べると衣料品が好調である。ただし、住関連商品が前年を大きく割り込んでいる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・盆の前と期間中、盆の後に、客の生活ニーズに合わせた商材を展開するという企画を仕掛けたものの、必要な物以外は買わないという客の傾向は変わっていない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月は気温の上昇もあり、衣料品などで動きが活発な物もあったが、食品を中心に必要な物だけを買うという傾向がみられ、販売量の伸びがない。中元や盆商材といった日用品以外の商材も販売量が減少している。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・8月は天候が良かったこともあり、夜間の売上が伸びた。ただし、ガソリンの高騰もあり、広域での客の動きが少なくなってきた。
		スーパー（広報担当）	販売量の動き	・セールや販促策の実施に伴って売上が好調となった反面、その反動も大きく、全体的には不振である。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・ドリンクなどで期間限定の値引きキャンペーンを実施すると、来客数は一時的に増加するものの、購入はその安い商品に集中する。結果的に客単価が下がるため、キャンペーン効果があまり感じられない。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・建設現場の数が増加しており、作業服姿の客が増えてきている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・夏物商品を中心に、20日ごろまでは売行きが過熱気味な状態が続いていたものの、20日過ぎからは急に落ち着いた状態となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・前年に比べると来客数は変わらないものの、客層が変わってきている。これは、この1年間の販促活動の結果であり、買取りや下取りといった当社の特徴がようやく浸透してきた。新しい客が来店していることで、売上は前年比10%の伸びが確保できている。
		その他専門店 〔医薬品〕（店員）	お客様の様子	・来客数の若干の減少が続いているほか、販売量も減少していることから、客単価が低下している。
		その他専門店 〔スポーツ用品〕（経理担当）	来客数の動き	・直営店の動きをみると、夏物商材の売行きが芳しくない。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・客の表情に明るさがみられるものの、来客数は増加していない。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・来客数の動きはほぼ横ばいで変わっていない。夏休みのイベントを企画したものの、来客数の増加はみられない。
		観光型ホテル （経営者）	単価の動き	・宿泊料金の単価が相変わらず低調であるほか、飲料売上や売店売上などの付帯売上も非常に低調である。
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・スポーツの合宿やキャンプ、盆の帰省などで混雑する日が続いたが、利用者数は前年を下回ったほか、客単価は2、3か月前とほとんど変わらない。
		都市型ホテル （営業担当）	来客数の動き	・8月は大阪全体の客室稼働率が高かった。当社も全国高校総体や高校野球の応援団など、前半は団体客の利用が多かったほか、個人客は盆を過ぎてても入込が良く好調であった。また、食堂も宿泊と同様に、盆の来客が好調で売上を伸ばしている。一方、宴会は婚礼のほか、一般企業、個人の宴会共に受注が悪く、最悪の状態である。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・売上は順調に伸びたものの、肝心の年末年始分の予約受付は昨年と大きく変わらなかった。
		旅行代理店（店長）	お客様の様子	・高額商品には増加がみられず、受注件数も若干減少傾向にあるものの、大きな変化はみられない。一方、海外旅行ではアジア方面は好調であるが、ヨーロッパ方面などの遠距離商品は苦戦している。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・8月の追い込み需要はかなりあったものの、9月のラストサマー関連商品は申込の動きが弱く、現在は国内旅行、海外旅行共に前年を下回っている。しかし、3か月前も同じような状況で、最終的には前年並みまで持ち直したことから、今回も前年並みの水準までは伸びる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・暑さが厳しくなったり、雨が降ったりと天候が不安定であったことなどで客は多少増えている。ただし、長距離の利用はまだ少ない。
		タクシー会社 （経営者）	お客様の様子	・まだ交通費を節約する様子がみられる。街に人は増えてきているが、夜は電車で急いで乗るといった感がある。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・番号ポータビリティ導入前の買い控えが起こっている一方、購買を活性化させようとする電話会社の販促策とのせめぎ合いがみられる。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・期待していたサッカーワールドカップも、日本が予選を通過できなかったため、ケーブルテレビやインターネットサービスへの加入が一段落した。デジタル家電の販売にも一服感が出ている。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・昨年新たに作ったレジャープールについては、吸水設備の事故による影響や、完成して2年目になることもあり、来客数が予想を下回った。
		競輪場（職員）	来客数の動き	・ここ数か月は、入場者数や1人当たりの購買単価に多少の上下はあるものの、低位で安定的に推移している。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	単価の動き	・単価の動きをみると、低下に歯止めが掛かった感もあるが、屋外レジャーそのものの市場は大きくなっていない。
		美容室（店長）	販売量の動き	・猛暑の影響で来客数は若干減少したものの、セット販売を行っている化粧品の売行きが良かったことで、売上は前年並みが維持できた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス 〔学習塾〕（経営者）	来客数の動き	・今月は夏休み期間中の無料体験キャンペーンを行ったが、参加者の数はほぼ例年並みであった。
		その他サービス 〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	販売量の動き	・レンタル売上の前年比がかなり伸びたほか、CDセル売上も今月は良かった。ただし、ゲームソフトの販売状況はあまり良くない。
		住宅販売会社 （従業員）	単価の動き	・分譲マンションの販売価格は、土地取得価格の上昇によって上がり始めているものの、立地の良い物件は販売状況が好調である。
		住宅販売会社 （総務担当）	販売量の動き	・住宅ローン貸出金利の先高感から、需要は伸びていない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・生の魚を取り扱っているため、猛暑の影響で来客数、購入共に減少している。
		一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・5月と8月の売上前年比を上位5店舗の平均で計算してみると、5月が93.4%で、8月が91.2%であった。昨年の愛知万博の特需による反動減を考慮しても、あまり良くない状況である。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・従来は車で来店する客が多かったが、大阪市内での駐車禁止の取締りが厳しくなったことや、ガソリン高騰の影響により、土日の来客数が明らかに減少した。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	販売量の動き	・いわゆる使い捨てカメラの、レンズ付フィルムの販売量が大きく落ち込んでいる。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・秋物商戦に多少の動きはあるものの、過去3か月と基調に変化はなく、宝飾、時計などの高額品の動きは低調で、回復の兆しがみえない。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・今月の売上也芳しくないほか、秋冬物の仕入れが難しくなっている。プレタポルテのゾーンではブランドの閉鎖がみられるほか、新素材やデザインの開発の動きが鈍化している。
		自動車備品販売店（営業担当）	販売量の動き	・盆を過ぎてから、車の販売量が激減している。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	販売量の動き	・エンドユーザーによる購買が少なく、小売店や卸売業者向けの展示会や催事での売上が減少している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が前年比で改善しないほか、業界内では低価格戦略の企業がやや上向きであるものの、力強さが感じられない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・8月前半は客の出足もある程度良かったものの、厳しい残暑のせい、後半は出足が落ちて開店休業状態である。
競輪場（職員）	単価の動き	・8月の客単価は15,387円と、5月の21,460円からは大きく低下した。一方、競走が平均的なグレードとなっている場外発売では、8月は15,129円と、5月の14,194円から若干上昇したものの、全体としてはやや悪くなっている。		
その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・大阪府下の3か所の住宅展示場では、8月の来場者は各会場共に前年割れとなっている。この猛暑と、住宅ローン金利の上昇懸念から、様子見の動きが広がっている。		
企業動向関連	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・今年は非常に暑く、客の動きが午前と午後の短時間に限られるため、売上が伸びない。
	良くなっている			
	やや良くなっている	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	取引先の様子	・得意先の業種により異なるものの、通信などの弱電や、環境、医薬といった業界の動向は上向きに転じている。ただし、住宅業界が低迷しているのは良い傾向とはいえない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は電気、電子機器業界からの受注増が顕著である。ただし、これが景気回復の影響なのか、経営努力の成果なのかは判断が難しい。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・製品のライフサイクルが短く、開発に多忙な状態であるが、取組方法次第では好機をつかめるようになってきた。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・厳しい残暑が続くなか、エアコンなどの季節商品は昨年以上の荷動きが続いている。AV関連商品も、荷動きの大幅な伸びはないものの、これまでどおりの堅調な動きがみられる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	それ以外	・官公庁関係の入札案件の件数が、昨年と比較して増えている。ただし、落札金額は採算面でみると厳しくなっている。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・住宅関係では、特便が増加するなど荷物量の増加が目立っている。その結果、納品数は目標どおりに増加したものの、豪雨などで倉庫に滞留する部材も増えた。全般的には新規取引が拡大する傾向にある。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・顧客は大阪市内の建売業者であるが、昨年に仕入れた分譲地は8月にすべて完売となった。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・テレビスポットCMの発注や新規の広告取引が活発になっている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・最近では小売業や建設業の取引先から、シルバー層をターゲットとするビジネスの相談が増えてきている。本業の不況対策が一段落し、いよいよ本業以外でのビジネスも行う余裕が出てきた。
	変わらない	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・依然として状況に変化はなく、受注量などが低迷している。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・悪いといった感はないものの、新規案件が減り、取引先の勢いもなくなってきている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・資材価格の上昇に伴う商品価格の値上げが、客になかなか浸透しない状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の顧客は鉄鋼関連の企業が中心であるが、いまだに投資意欲はおう盛である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・ここ1か月は、修理の依頼や販売量が横ばいであるほか、同業者も似たような状況となっている。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年この時期は商品の動きが悪いが、今年は新商品の発売もなく、例年以上に悪い。
		その他製造業〔履物〕（団体役員）	受注量や販売量の動き	・依然として輸入品の増加が続いているため、国内生産が減少している。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事量は若干の増加傾向であるものの、価格競争は相変わらず厳しい。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・地方では中小企業や古くからの企業の倒産が相次いでいるほか、貨物の動きも良くない。
		輸送業（営業所長）	取引先の様子	・混載路線便の業者が燃料高騰などの理由で値上げを打診しているものの、同社の顧客が了解しないため、支払だけがが増えて利益が圧迫されている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・自動車部品製造業、建機製造業は相変わらず売上などが好調である一方、建築資材販売業などは販売単価の上昇にもかかわらず、数量の減少で売上は横ばいであるほか、仕入価格の上昇により収益が悪化している。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・8月に発表された路線価が神戸市でも上昇しているなど、土地の値段は実際に上がっているものの、事務所賃料はあまり上がっていない。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体の落ち込みと電子媒体の伸びが続く形は変わらず、プラスマイナスゼロといった状況である。
		その他サービス業〔イベント企画〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型案件はほとんどないものの、中小規模の新規案件はコンスタントに受注している。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	競争相手の様子	・価格競争は依然として厳しく、受注しても利益が上らない状態である。
	やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・当社の売上も芳しくないが、原材料メーカーなどの売上状況も良くない。気候などの影響もあるものの、低迷の原因がはっきりしない状況である。ただし、取引先では漠然と景気が悪くなっているといった声が目立つ。
		繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・流通段階での商品の流れが悪く、消費者へ届くまでに時間が掛かっている。また、催事は行われているものの、価格条件が厳しく15%ダウンすることもある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 盆明けから受注量が減少している。これは毎年の傾向であるものの、今年は少し減少幅が大きい。
		輸送業（営業担当）	それ以外	・ 道路交通法の改正で駅前や幹線道路に駐車できなくなり、2名で乗車するなどして対応しているため、余分なコストが増えている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・ 取引先でリストラやコストダウンが続いている影響などで、受注量が減少している。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 各種メーカーからの印刷物の受注が少ない一方、人材派遣や人材教育などのコンサルタント会社からの受注が目立った。また、盆明けにコミックマーケットが開催されたこともあり、それに伴う利用が目立った。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 業況は好転しているものの、実用品の受注は伸びていないほか、価格競争は依然として激しい。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 一般求人は過去3か月間に10%以上の伸びを示したほか、新規高卒求人の伸びも著しい。また、求人内容にも賃金の見直しのほか、年齢や資格要件の緩和など、人手不足感からくる諸条件の見直しが進んでおり、相変わらず状況は良い。さらに、求人受理の窓口では原油高の悪影響も聞かれなことから、今月も良い状態が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 新規求人数は前年比で49か月連続の増加となっているほか、有効求人倍率も前月と同水準ながら高水準で推移しているなど、改善傾向が続いている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・ 人材派遣における今月の契約更新などの状況を見ると、10月以降の動きが良くなっている。企業には、正社員だけでなく派遣社員も確保する動きが出てきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 新規求人数は前月比、前年比共に数%の微減となった一方、新規求職者数は前年比2%増ながら、前月比ではマイナス17%と大幅に減少した。また、採用者数は前年比プラス10%強で堅調に推移しており、所得、雇用環境の改善傾向が定着しつつある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 新規求人数、有効求人数共に前年比で増加が続いており、新規求人数は14か月、有効求人数は25か月連続の増加となった。なお、新規求人数は8か月、有効求人数は15か月連続の2けた増である。一方、新規求職者数、有効求職者数は共に前年比で減少傾向が続いている。新規求職者数は9か月、有効求職者数は8か月連続の減少となった。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・ 前年よりも内定状況は少し改善しているものの、夏期休暇中で学生の動きは鈍い。一方、現在も採用予定数を充足できていない企業も多く、大学を訪問して内定状況や今後の動きに関する情報を集めるなど、採用活動を続けている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 取引先からの求人要請件数は横ばいであるほか、大口案件が少ない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	それ以外	・ 新卒採用は、10月以降の秋採用に向けた企業のPR活動が始まるまでは、特に目立った動きはない。一方、中途採用は経験者の採用に重点が置かれ、求人情報誌ではなく人材紹介サービスの活用が活発化しているなど、利用メディアの選択が厳しい。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	採用者数の動き	・ 事務職のパート求人が増えているものの、応募者がなかなか集まらなくなってきた。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・ 求人数が増加傾向で推移するなか、条件の良い正社員求人を求めるフリーターや派遣社員といった在職求職者が目立つ一方、正社員求人には正社員としての経験を重視する企業が多く、就職には結びつきにくい状況である。
民間職業紹介機関（職員）		求人数の動き	・ 日雇求人数が前年比プラスで推移している。	
学校〔大学〕（就職担当）		求人数の動き	・ 新卒求人の動向は変わらないものの、中小企業には依然として充足感がない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・猛暑が続いており、企業、求職者共に一休みといった感がある。大きな案件が少なく、小さな案件を集めて何とかしのいでいる。
	悪くなっている	-	-	-

8. 中国(地域別調査機関:(社)中国地方総合研究センター)

(-: 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街にも新しい店が入り、また、新規入店予定(居酒屋と楽器店)も2店あり、商店街の雰囲気が変わってきている。来客数も微増している。ただし、隣接する商店街のアーケードが撤去され、寂れた雰囲気もある。
		一般小売店〔印章〕(営業担当)	来客数の動き	・支店がある下関駅は、火災後東口が整備され、広く明るくなり、以前に比べ客もゆっくり駅を利用しているようである。印鑑等の注文も多少でるようになった。
		百貨店(売場担当)	来客数の動き	・7月の水害で客の家が被害に遭い心配したが、8月前半に10日間、夏物集客祭を行ない、予算110%を達成した。また、翌日から売場を全部秋物に変更し、その秋物の動きが非常に良い。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・客単価が以前よりだいぶ上昇している。少しずつではあるが、上向ってきている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・3月以降、販売点数が前年を上回っている。5月以降、前年比105%くらいであったが、7~8月は107%であった。また今月は客単価が前年比104%、来客数が前年比104%、売上が前年比107%と徐々に良くなってきた。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・8月は例年に比べ気温が高かったため、飲料、そうめん等の涼味関係が爆発的に売れ、それが店全体の売上をけん引する形で、売上も前年を上回ることができた。
		スーパー(店長)	単価の動き	・一品単価、買上点数共に前年比が3か月前と比較してアップしている。少しグレードの高い商品が動いている。
		スーパー(財務担当)	販売量の動き	・天候、青果の高値等の影響もあり、売上は前年実績を上回っている。客単価が前年より上昇している。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・3か月前に比べると、売上は前年比2%の改善となり、来客数も前年比で3%改善し、前年比をクリアした。8月に入り長引いた梅雨も明け、一気に売上を上げた。台風で一時期下がったもののその後は大きな影響もなく、客の財布のひもが多少緩くなってきた感がある。
		衣料品専門店(地域ブロック長)	販売量の動き	・天候の良い日が多く、夏物の売上が好調であった。
		家電量販店(予算担当)	販売量の動き	・今年の夏は例年より気温の上昇が遅く、また天候が不順だったこともあり7月の売上が8月にずれ込んだ。その結果として8月は例年以上の販売量となっている。
		乗用車販売店(販売担当)	競争相手の様子	・当社も、他の同業者についても、販売数を見ると全国平均以上の伸びがある。したがって県内の状況に関しては、景気は上向きと考える。
		その他小売(営業担当)	単価の動き	・来客数は平年並みであるが、単価の伸びが大きい。
		その他飲食〔ハンバーガー〕(経営者)	単価の動き	・客単価、来客数ともに好調さを維持しており、売上の前年比は今年最高となっている。
	観光型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・昨年也好調だった販売実績を、今年は更に上回っている。	
	都市型ホテル(従業員)	販売量の動き	・レストラン部門全体の販売量が、前年並みか下回っていたが、8月は前年を超える見込みである。	
	都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・夏休みに入り、家族での宿泊が例年より多く、客室では定員以上での利用も多かった。また広島ではスポーツのイベントが多くあり、集客に貢献した。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量、来客数ともに、3か月前よりやや増加している。
		競艇場（職員）	来客数の動き	・来客数の増加にともない、発売数も増加した。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・金利の上昇、消費税値上げ等のムードに客が反応しているかのごとく、若干受注量が増加している。
	変わらない	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人服では、トレンド系ブランドが、7月末から初秋物・端境期品などプロパー商材が好調に売れている。反面、夏物も再マークダウン・均一価格など価格訴求も有効となっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・先月までは、前年割れの売上が続いていたが、今月は夏休みで子供を対象とした催事企画が好評で来客数の増加が図れた。その結果、前年並みの売上を維持した。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・全体的に5月以降売上が前年を割り込んでいるが、個々のテナントによりばらつきがある。残暑が厳しいことにより秋物が売れないのも一因だと考えられる。また、郊外のショッピングセンターに客がとられているのか、来客数も減少している。
		百貨店（電算担当）	販売量の動き	・来客数は2.7%減少した。この一年間減少の波がおさまらない。中元売上も、平均単価で22円減少し個数も減少し、売上も減少した。中元という固い商売にも不景気の風が吹いてきた。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・8月16日までは夏物のセールが大きく数字をひっぱり好調であったが、17日以降失速した。初秋物の動きの不調がはっきりしてきており、店全体でも8月の売上は前年比99%の見込みである。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月の前半については、今まで苦戦の続いていた食品部門も好調に推移し、百貨店全体でも良い形で推移していた。しかし中盤より徐々に来客数・売上が悪くなり結果として目標へは未達の予想である。宝飾部門・生鮮部門が大苦戦であった。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・気温が高い日が続いているため、婦人服業界では、Tシャツ・カットソーなどの低単価の商品しか動きがみられない。また、ガソリン代の高騰も響いているのか、中元ギフトの解体セールを行うと、史上最高の売上を記録するなど、客は少しでも安いものを買集めようという傾向が見受けられる。婦人服・し好品といったものに対して、客の動きは鈍い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今月は天気も良く、来客数・単価ともに前年と同じで推移した。
		スーパー（店長）	単価の動き	・8月は気温が高く、夏物商材を中心に販売が伸び、特に野菜は単価上昇にともない売上が伸びた。反面、全体の平均単価は前年割れとなっており、景気の回復については厳しいものがある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年比100.2%とほぼ横ばい状況である。景気が良いと実感できるまでには至っていない。ただし、1人当たりの購買点数は前年比で増加し、それにとともに、客単価も若干ながら上昇の気配がある。しかしながら、来客数が増加しない以上、景気の回復というには難しい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・全体的な景気の動きは良くないと思われるが、当店では来客数が増加している。明確な原因は不明だが、他の店より店の品のレベルが高くなってきていることが要因ではないか。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月前半は、前年割れの厳しい状況であったが、帰省客が動いた中旬は少し回復した。盆商品は好調に推移したが、定番商品の動きが今一つである。最終的には前年並みということになりそうである。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は天候に恵まれた割には、売上が昨年を下回っている。アイスクリーム・飲料等のこの暑さによる必需品の売上は伸びているが、本来この時期に売れるはずの、花火・コミック等が売れていない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は気温の高い日が続く、飲料・アイスクリームの動きは良いが、その分その他の菓子等、他の商品の売上が落ち込んだ。8月は、売上の増加が見込める月なのだが、例年に比べて伸びがなかった。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年20日も過ぎるとバーゲンを切り上げて完全に秋物にするが、今年は出足が悪かった分、夏物がダラダラと売れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・全体的には、乗客数は前年並み。ただし、必要のないものは購入しないという客の意識は強く、バーゲン価格でも手を出さない。売上も昨年並みといった状況である。
		家電量販店(店 長)	来客数の動き	・以前と大きな変化はないが、来客数が若干減少傾向にある。
		その他専門店 [時計](経営 者)	販売量の動き	・時計宝飾店と観光客相手の土産物店の2店舗営業している。時計宝飾部門はあまり変化がないが、土産物店は売上が前年比で若干増加している。来客数、単価も伸びている。
		その他専門店 [書籍](従業 員)	販売量の動き	・猛暑の影響からか客の出足も少ない。またシネコンがオープンしたために少し客足が遠のいている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は飲食個数が増加している。要因として、デザート部門、特にかき氷が良く売れたため、客単価・売上共にアップした。
		スナック(経営 者)	お客様の様子	・7月は長雨であまり良くなかった。8月は暑い日が続く、夏祭り、花火大会と人は多く出るが、我々の店にはなかなか立ち寄らない。8月もあまり良くなかった。
		観光型ホテル (経理総務担 当)	お客様の様子	・夏休み期間中の入込状況を見ると昨年よりは好調に推移している。ただしマスコミ等で報道されている原油価格の高騰により、消費者心理に慎重さがあるのか、引き続き低価格の宿泊プランに人気が集まっている。
		都市型ホテル (総務担当)	販売量の動き	・以前に比べて、一般宴会及び婚礼において件数が頭打ちとなっている。また梅雨明けが例年より2週間程度遅かったため、ピヤガーデンの売行きが上がらず、前年比マイナスとなっている。原油高によって企業のモチベーションも低下傾向にある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・鳥取では、ほとんどのイベントが2日ほど早くなった。その影響からか、13日ごろまでは前年比プラスだったが、それ以降はやはりだめで、トータルで3か月前と変わらず前年比マイナス5～6%くらいになる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・7～8月の売上は前年と変わらず、今年に入ってから平均では、前年比1～2%の増加である。乗客との会話からは、景気が良いという話が聞こえてくるが、タクシー運転手・スナックのママの話では8月はあまり良くないようである。
		タクシー運転手	販売量の動き	・利用件数は日によって上下するが、1か月を集計すると、だいたい同じ件数で毎月推移しており、この傾向は続いている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は昨年に比べ観光客がずいぶん増加しているが、タクシーを利用して観光する客は多くなかった。
		タクシー運転手	単価の動き	・3か月前と比較すると、多少伸び悩んでいる。8月中旬は、お盆・帰省客・観光客等で若干のにぎわいはみせたが、日中・夜の営業ともに、大きく伸びることはなかった。それ以降も、上向くことなく経過している。
		通信会社(総務 担当)	お客様の様子	・10月の地上デジタル放送開始を控え、デジタル移行は順調に進んでいるが、競合他社の攻勢等により新規契約は伸び悩んでいる。
		テーマパーク (財務担当)	来客数の動き	・夏休み期間のため来客数が増加する時期であるが、好天に恵まれているにもかかわらず前年を上回るものではなく、景気の上向き感を感じられない。
		テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・夏休み期間ということもあり、子供連れの家族が多くてにぎわった。反面、暑過ぎたせいか中高年層が落ち込んでおり、全体としては昨年並みであった。
		テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・今月は晴天の日が続いたためほぼ例年並みの来客数となっているが、明らかに増加を感じる材料は特になく、全般的に景気回復感はない。
		設計事務所(経 営者)	販売量の動き	・建築設計業務関係に携わっている者としては、販売量の減少及びそれに伴う1物件当たりの単価、受注額の低下という状況が続いている。
		住宅販売会社 (販売担当)	販売量の動き	・来客数は前年比で若干増加しているが、契約数・売上共に、この3か月横ばい状態が続いている。なかなか上向き傾向にならない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量の動きが悪く、さらに来客数も減少している。また客の様子にも買い控えが非常に多く見受けられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街に来る客が毎月毎月減少している。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・8月に入り、連日の酷暑が続く、例年以上に夏物を残し展開しているため、セールスの動きは好調に推移している。しかし分母の大きな秋物が大きく低迷し、特に堅調に推移していたヤングゾーンに於いても、動きが低迷してきた。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・8月1日からの夏休みの催事においても、来場者数が前年の9割と大きく下回り、子供服のフロアを中心に売上も低迷している。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・高かった青果物も値下がり転じ、一部商品は以前より安くなっているにもかかわらず、動きが悪い。
		衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・今月は来客数が減少し、それにともない売上も減少している。梅雨明けが遅れたことも要因の一つであると思われるが、夏物の動きも今一つで、秋物にはまだ早く、様子見の客が多い。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・前半はエアコン等に動きがあったが、盆を過ぎてから来客数も減少し、販売量も減少した。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・商談が、小さい車へ小さい車へと動き、特に軽自動車への移行が顕著に現れている。少しでも安く、またいろいろな小型車を見て回る買い回り客が増加している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・最近の販売量は前年比90%と大変厳しい状況である。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・引き合い自体も法人、個人とも減少傾向である。景気が上向きであるような報道があるが、特に法人関係の売上が減少している。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・軽自動車への問い合わせが依然として多い。理由として維持費や燃費のことを言われる客が非常に多い。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・夏商戦も昨年に比べると良くなく、この時期期待する高額品のナビゲーションの売上が振るわず、来客数はそれなりに堅調であるが、実感としては悪くなっている。
		住関連専門店（広告企画担当）	単価の動き	・価格が安いというイベントを6～8月の期間で行ったが、終盤になればなるほど、客単価が低下していった。
		その他専門店〔スポーツ〕（店長）	来客数の動き	・来客数が昨年を大きく下回っている。広島市郊外の大型ショッピングセンターへの客足がますます高くなっているように感じる。身のまわりでも市内で買物をする人が明らかに少なくなっている。
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・競争の激化から、単価が低下している。と同時に、8～10月の受注が、例年より15%減少している。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・原油高による生活関連商品の低コスト化、金利など先行き不透明感があり、買い控えも生じている傾向にある。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・販売の不振から同業者の廃業、給与の抑制などの話をよく聞く。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・地方では相変わらず民間工事の新築物件が少ない。その上公共事業の見通しも良くない。
		住宅販売会社（経理担当）	来客数の動き	・盆休暇があるため営業日数が少なく、例年契約数は落ち込む傾向にあるが、実営業日1日あたりのモデルルームへの来場者数、契約数とも3か月前の数値を下回っている。
		悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外
乗用車販売店（サービス担当）			販売量の動き	・新車販売台数が前年比80%ぐらいと非常に苦しんでいる。新型車の導入もないし、客の動きも活発ではないようである。
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・過剰負荷であったために生産を外部委託し、負荷低減していた職場が、新製品の好調で、またしても負荷がかなり高くなってきている。
	やや良くなっている	建設業（総務担当）	取引先の様子	・設備投資意欲がかなりみられる客が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を継続中である。原材料費や労務費の上昇は依然として続いているが、製品価格への転嫁が進むとともに、生産効率の向上から、収益面も改善している。
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・生産量、出荷量共に先月と大きな変化はなく安定しており、社内は全般に高稼働である。物流費・原燃料費高等の影響を受けながらも販売価格の上方修正等の影響で、利益が出ている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上り要請は一段落の状態である。したがって売値の改定要請も落ち着いている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は下期予算も大きく変わらない。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原油や鉄・非鉄などの原材料の値上がりで毎月の原価が上昇傾向にあり、想定したほど利益は出していない。しかしながら、仕事量は十分あるため、フル操業は変わらず、量で質をカバーしている状況である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連は国内・欧米とも好調な受注を維持しているが、携帯関連・一般工作機械は受注量が20%～25%程度減少しており、先行きに不透明感がでてきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業務請負、派遣業は相変わらず客の要請が多く、以前と変わらない好景気になっている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き、受注量・受注価格共に横ばいで推移している。しかし、石油製品や原材料価格の高止まり、金利上昇の負担増など採算的に厳しい状況が続いている。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売れ筋商品の品番数が減少し、逆に在庫が増加し、新規の受注数が伸び悩んでいる。
		通信業（支社長）	取引先の様子	・光電話は横ばい傾向である。通信機器については今一步の状況である。
		通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・夏場にかけて法人向け通信サービスの伸びは芳しくない。安価型のVPNは予測に近い数値が出ているが、既存高額商品の減少が利いて収支的に厳しい。FTTHなどコンシューマ向けサービスを応用する企業も更に増えてきている。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・公共事業の削減は、建設業のみならず関連する卸売業の売上高の減少といった面にまで大きく影響が出てきている。また、燃料費の高騰は経費全般の底上げになってきている。反面、猛暑の影響で一部好調な小売もあり、製造業は今夏の受注が比較的順調だった。	
	その他サービス業〔清掃具レンタル〕（情報管理担当）	受注量や販売量の動き	・下げ止まりの傾向はみえるが、依然として前年を割っている。	
	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・本来アジの最盛期だが、アジ漁は振るわず、県外船が漁獲するマグロの子ヨコワを水揚げするために、大中型巻網船が少し好調である。このままの継続を期待している。シロイカ漁が不振である。加えて、ここ数年深刻な漁業被害をもたらしているエチゼンクラゲが8月中旬以降、島根県東部を中心に被害が膨らんできている。このまま西部まで被害が拡大しないことを念ずるばかりである。
		食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・業者から価格の見直しをせまられ、大分厳しい面が感じられた。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が3か月前と比べ約10%減少している。ただし、納期対応とかで残業体制は継続中である。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・国内向けの自社製品の売上が、市場環境の悪化に伴い減少してきている。
	悪くなっている	建設業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量を前年同月と比較すると約3割減と厳しい状況であり、この値は2年前とほぼ同じである。
雇用関連	良く なっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・特に製造業を中心に求人数が多くなっており、中でも正社員雇用については3か月前と比較して、やや上回る数字になっている。背景として企業の景気回復と2007年問題、今後の少子高齢化に備えて採用を増やしていることが考えられるが、一番は景気の拡大による採用難により、条件を良くしなければ人材が集まらないことである。
		人材派遣会社（担当者）	雇用形態の様子	・正社員雇用は随時伸びてきている
		求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・依然、採用の広告媒体に対する問い合わせが多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数及び月間有効求人数とも前年より大幅に上回っている。また、人員整理の数も減少傾向である。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数の増加傾向が続いているが、派遣求人の増加によるところが大きい。一方、新規求職者が前年比で11.3%の増加。景気の回復報道から、より条件のよい仕事を探そうとする在職者が求職活動を始めた気配がある。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・地場では準大手のシステム開発企業が「求人はしても経験者採用」と思うように進まずに、受注をこなさなければならないような状況にある。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	それ以外	・昨年は電光掲示板や求人情報誌の掲載数は平均的であったが、4月以降、掲載数が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・小売業の動きが、まだ回復の波に乗っていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は建設業と製造業が低調となった他は横ばいで推移しており、全体では引き続き停滞傾向となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月及び3か月前に比べ減少した。非正規求人から正規求人へと移行する傾向はある。しかし労働集約型のメーカー等は企業内の主要な部署には正社員を配置するが、その他の部署には非正規社員を配置するといった形は続く。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・新規ビジネス、サービスを開始する（あるいは開発したい）ための責任者を募集するケースが増えてきた。これまでの守りの姿勢から攻めへ転じる企業が目立つ。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人状況は変化がなく、採用状況についても定期採用が減った。
やや悪くなっている	-	-	-	
悪くなっている	-	-	-	

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	スーパー（予算担当）	販売量の動き	・暑い日が続いているため、食品を中心に商品の回転が良くなっている。お盆期間の売上については、食品が前年比約10%増加している。ただし、原油高騰の影響で紙製品などの一部の生活雑貨は値上がりしており、買い控えがでている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月は天候が良く、売上は順調に推移した。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・8月はバーゲン期間中であり、天候に恵まれたため、紳士物のTシャツやポロシャツなどの軽衣料品の売上が好調であった。婦人物のパンツは低調であったが、紳士物の売上で十分カバーできた。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・土曜、日曜のフェアの来客数は前年並みであるが、新車の成約件数は前年比116.7%であり、前年を上回っている。その結果、1か月の販売量は前年比105.9%と伸びた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今年の8月の来客数は、昨年と比較して増加している。その理由は、会社の景気が良くなり資金的に余裕ができたこと、夏休みを十分に取れるようになってきたことなどである。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・例年より、夏休みの家族旅行が件数・金額ともに増加している。海外ではアジアなどの近場でなく、ヨーロッパ、オーストラリア、ハワイなど比較的遠隔地の高額商品の売上が良くなっている。国内では近場の温泉、各地の盆踊り、東京・大阪のテーマパークなどに人が集まった。8月、9月に航空会社と提携してソウル旅行のキャンペーンを行っているが、予想以上の関心を集めており集客は順調である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数が昨年よりも増加している。
	変わらない	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・地方独特のお盆商戦は、昨年までの活気がなくお盆以降の商戦も大変厳しい状況である。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・8月1日から開催したリニューアル前の売りつくしセールにより、前年同月に比べ来客数、売上高共に増加したが、中元商戦については若干の前年割れで終了した。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・紳士服の動きは良いが、舶来時計や貴金属などの高額品の売上は依然として低迷している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・必要な量しか買わない傾向が強くなっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・毎週1回、冷凍食品半額セールを実施しているが、3か月前と比べ、セールの日に来店客が集中する傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・残暑が厳しいため、例年より約1週間セールを延長をしたが、売上にはつながっていない。秋物衣料の客の反応は鈍く苦戦している。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・レンジ、炊飯ジャーなどの白物家電が良く売れている。その他、クリーナー、扇風機等小型商品の販売量も増加しており、店内も多少活気が出ている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年8月の販売量の悪さには苦慮している。7月からの低迷を引きずっているようで、販売量が伸びていない。新型車が投入されるまでは現状が続く。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・来客数が若干増加しているが、単価の下落傾向が止まっておらず、相対的に売上高は変わらない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月はお盆などで帰省しているが、よさこい祭りなども観光バスや自家用車を利用しており、タクシーの利用頻度が少ない。
		観光名所（経営者）	来客数の動き	・例年に比べ、梅雨明けが遅く、また、お盆に台風が九州に上陸したため、小豆島への観光客は大幅に減少した。
		設計事務所（職員）	競争相手の様子	・競争相手との値引き競争は継続中であり、値引き率も変動はあるものの、ほぼ安定してきている。リストラをしている業者もあるが大きな変化はない。
		その他住宅（住宅ローンセンター）	お客様の様子	・客との会話から、景気の動向によって収入が増減したという話も聞かれず、地方の一般家庭の経済までは景気の動向が作用していない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・月初めのお祭りには人出はあったが、お盆過ぎから来客数が減少している。特に土日は、学校が休みのため、学生が町中ではなく郊外店へ流れている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	競争相手の様子	・例年、夏休み期間はバレエやピアノの発表会のための花束の注文が多いが、今年は発表会などのお祝いの花束の数が減少しており、単価も低下しているため売上高は減少している。少子化が影響しているのか、子供にかけるお金の金額が昔と比べ減少している。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・夏祭りの観光客と帰省客が増加する8月は最盛期であるが、長梅雨と冷夏の影響で例年に比べてプレミアムビール以外は販売量、販売単価共に低調である。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・地方都市の景気は全く底入れ感がなく、この時期の金利上昇も景気にはマイナス材料である。大都市と地方都市、大企業と中小企業の景況感は全く違う。
企業動向関連	良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規の化粧品、環境に優しい洗剤やクリーナーが次第に認知され受注量が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新商品の受注量が増加したため、売上高が増加している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・良いものに対する受注が増加している。
		通信業（営業担当）	それ以外	・会社を訪問した時に、レジャーの話題が増加し、有名ゴルフ場ほど予約が取れにくくなって来ているとの会話が聞かれている。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・大型クレーンの稼働率は相変わらず好調だが、地域間の格差はまだ残っている。高所作業車についても全体的に稼働率は活況であり、仕事量も豊富で見通しは明るい。
		輸送業（支店長）	競争相手の様子	・益明けの貨物量が低調であり、我慢できず、一部で運賃低下の動きも見られる。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・公共工事関連の企業は厳しい状態であり、倒産もあり得る状況のなかで、消費も進まず、厳しい状況である。
		公認会計士	取引先の様子	・客の資産表や決算書などの対比表を見るとほとんどの業種で売上、利益は、改善されていない。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注を見る限り、関西方面の排ガス受注も一段落し、中国地区・九州地区がやや好調であったにすぎない。全国的にはメーカーの販売価格も資材高騰を吸収したため、全般的に低調だった。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は少なく、受注の案件があっても、遠くの企業と競合し、受注が大変困難な状況になっている。受注したとしても、単価が安い。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工場・事務所の増築並びに改修工事の案件が増加しているが、金額的には少額で、全体的な受注残高は前年割れになっている。
	悪くなっている	-	-	-
	雇用関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている		求人情報誌製作会社（従業員）	採用者数の動き	・雇用する企業が景気回復傾向にあるため、採用者数を増やしている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の伸びが1年以上、前年比プラスで推移している。
変わらない		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・客からのオーダーの数と求職者数のバランスが悪い。案件数は順調に推移しているが、登録者数は前年の約半分になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・どの商店主に聞いても物が動かないと言われる。また、高知では、新規建築時や開店時に、新聞へ落成広告を掲載する習慣があるが、事業主の意欲が下がっており、しばらく低迷している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数に増加が見られず、条件面でも低水準で推移している。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・新卒者への求人活動は活発でない。
やや悪くなっている		民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・8月は、特にUターン希望の登録者数が前年比4割程度増加している。会社の業績不振のため香川へのUターン希望を考えている人も多い。
悪くなっている	-	-	-	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	テーマパーク（職員）	乗客数の動き	・個人客、団体客ともに宿泊施設、飲食施設、アミューズメント施設でにぎわいがあった。宿泊施設の予約状況も1～2割増えた。
	やや良くなっている	スーパー（経営者）	単価の動き	・生鮮食品等の単価が上がったため、全体的な客単価が上昇し、前年比を上回った。
スーパー（店長）		販売量の動き	・相変わらず食品が好調である。毎週の名物市が大きく貢献しており、衣料品や住居用品も前年を上回った。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・大候異常で野菜類の価格が高騰し、売上に良い影響が出ている。さらに、気温上昇で飲料などが食料品の売上を押し上げている。水産物に関してはロシア、中国、インドなどでの消費量増大で商品原価の高騰している。その影響で店頭価格が少し高くなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・売上のウエイトが非常に大きい食品の単価がやや上がっており、好調である。また衣料品も婦人服が好調であり、単価の高いものの売上が伸び、全体の伸びに大きく影響している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・競合店の出店が7月にあり、売上は落ちていたが、8月は中元商戦でギフトの動きが良く、昨年並みにもち返してきた。来客数も元に戻りつつある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数が前年比102.4%となっており、好調である。青果の相場が高くなっており、売上也前年比117%と好調である。衣料品も夏物の処分セールが前年比105%で推移している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・台風10号の影響があったものの、その前後では晴天が続き、気温も非常に高く推移したため、アイスクリーム・清涼飲料・乾めん・つゆ・ビール等の涼味商材の動きが良かった。8月から重点的にスタートした夕方の販売強化により客単価も上昇し、売上は回復傾向にある。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・長雨による野菜の高騰の影響で売上額が上がった。前年はとろろんの爆発的な販売量があったが、今年はそれを差し引いても前年並みを維持している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上、来客数ともに昨年を大幅に上回った。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店が前年比106.5%、コンビニエンスストアが前年比101.2%、前年比ローカルスーパーが109.7%と、売上が上昇した。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・ミセス婦人服は暑さのせいか客足が悪く、前年を3%程度下回った。しかしヤング婦人服は好調であるのに加え、宝石・着物も好調に推移しており、全体的に前年を上回り売上状況は悪くない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑により季節商品が好調に推移したことに加え、AV商品の単価ダウンが販売量拡大に結びついた。
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・引き続き家電関係は薄型テレビ、地デジ対応の商品、DVD、エアコン関係が動いている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・販売量、来客数がやや増えている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・暑さが厳しい割には、客の様子は良い。思ったより人の動きもあり、好調である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は天候的な要因で昼間が忙しく、夜も会社関係の客がたくさん動いて一時的に車が足りないという状況もあった。
		ゴルフ場（従業員）	販売量の動き	・天候が思わしくない日が多かったが、入場者数は前年を20%程度上回った。
	変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・小売店では価格競争が進み、同一商品の価格低下は否めない。婦人服等は以前は5～10万のものがよく売れていたが、現在は1～3万円が主流で、5万円以上の商品を置いても売れない。古書店でもネット販売が台頭しており、価格競争のため以前の3分の1以下の価格となっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・盆時期は売上が上がるが、近年それがなくなっており、今年は特に顕著であった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月初めに市内の中心部で祭りがあり、かなりの来街者数であったが、それ以外は暑さのせいもあり来街者数は減少傾向にある。
		一般小売店【茶】（販売・事務）	販売量の動き	・販売している商品が夏場にはあまり必要ないという事もあり、家庭用の売行きは下向きだが、贈答品としての売上が例年よりもあり、販売量はいつもと変わらなかった。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温の影響もあり秋物の動きが良くない。客の様子をみると、秋物を積極的に探してるようでもない。プライダル関係のワンピースに若干の動きがある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている一方、レジ客数、買上単価は来客数の伸びを上回っており、購入目的での来店が増えている。特に中元ギフトでは、通信販売、郵パックの伸びがギフトセンターの来客数を上回っている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・輸入物が増えており、価格は非常に厳しい状況である。5年前にも厳しい時があったが、それ以上に厳しい状況である。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の下落傾向が続いており、客単価も下がっている。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・来客数の減少も下げ止まりが見えないが、それよりも購買意欲に力強さを感じない。客は目的の商材以外、必要性がないものは購入しない。関連商品の販売も難しく、滞留時間も短くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・猛暑の影響で衣料品は順調に推移しているが、食品に関しては競合店が増えており、厳しい状況が続いている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・食品、衣料品については数か月前から前年並みで推移しているが、住居用品特に大型家電についての売上は伸び悩んでいる。客は必要最低限のものは購入するが、それ以外のものに関しては慎重になっている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・夏物衣料の動きがかなり良い。また併設している映画館が集客をしている状況であるが、全体的な景気の上向きとは感じられない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・夏休みでイベントの多い月であり、財布のひもも緩みがちなはずだが、依然買い控えの傾向が強い。
		衣料品専門店	販売量の動き	・来客数も減っており、客の購買意欲もあまり感じられない。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・一部の客は秋物の正価販売品を購入し、先取りしているが、一般の客は依然セール品の中から好きなものがあれば購入するという傾向が続いている。全体的に単価が下がっており、今後も景気が良くなるとは考えられない。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・お盆の入出は例年より多かったが、売れるのは夏物のファイナルセール品ばかりなのに加え、買上点数も少なく客単価が低かった。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年と比較して減少している。
		乗用車販売店（管理担当）	単価の動き	・新車の販売はこれまでミニバンが好調に売れていたが、最近はコンパクトカーのニーズが高まっており、単価が大幅に下がっている。売上高も減収減益である。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の販売量は7月末に仮需要があり、8月は前半が少し鈍い状況だった。お盆をピークとして売上は上がり、残暑も厳しく、販売量は落ちていない。
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・盆前後に子どもや孫を連れて家族連れのお客が目立った。気持ち良く食事をして気持ち良く金を支払っていくという、良い状況が見受けられた。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・夜の来客数の伸びが今一つである。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・常連客は安定しているが、なかなか新規の客が増えない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行は、ハワイ・ヨーロッパの供給増もあり家族旅行を中心に8月に集中した。国内旅行は夏休み単価が高いこともあって、比較的安い9月へ分散する傾向も強い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・盆でホテルの宿泊が多かったせいか、夜のタクシー利用が多かった。午前中は自家用車、レンタカーの利用が多く、利用はほとんどなかった。これまでで最もタクシー需要の少ない盆であった。
		タクシー運転手	単価の動き	・人の動きは若干良くなったが、相変わらず単価が低いので3か月前と変わらない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・引き続き、やや高水準で解約が推移している。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・7月のボーナス商戦の盛り上がりが続く、盆過ぎまでは各社チラシ新聞折込や街頭チラシ配布などの効果もあり、自店のみでなく全体的ににぎわった。低価格商品を中心に販売台数が増加した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所(代表取締役)	お客様の様子	・市町村からの民間への委託事業について、入札が行われるが、価格競争が激しく、ダンピングして赤字を承知で受注しなければならないような状況にある。民間からの建設関係の仕事は減少している。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・盆や夏休みを差し引くと、来場者が極端に少なくなっている。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・猛暑が続き、その上駐車違反の監視が厳しい状況で、駐車場も広く涼しい大型商業施設に行く客が増えている。商店街の来街客数はかなり減少している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・衣料品関係には買い控えの傾向が続いている。依然、来客数の減少が目立っている。
		一般小売店[鮮魚](店員)	来客数の動き	・残暑ということもあり、来客数が少ない。食欲も落ちているのか販売量も少ない。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・例年は盆過ぎから秋物の動きが活発になるが、今年はそういう動きが極めて鈍かった。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・業態、個店差はあるが、消費の動きは依然鈍い。特に婦人衣料が不調である。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・売上は前年比99%であったが、この中には台風10号の影響が約2%ほど含まれるので、台風がなければ前年比101%程度であった。2か月連続で前年比99%と安定して推移している。部門別には衣料品が前年比100%、婦人紳士共に衣料品は良い。他にも食料品は前年比99%、中元ギフトについてはほぼ前年並みであった。しかし家庭用品は前年比80%と不調であった。また売上構成比をみるとバーゲン品などの割合が若干上がっているという傾向があり、買上単価、客単価が上がっていない。
		コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・天候も良く来客数が増加した。真夏日が続いたことにより、夏物商品のアイスや氷、飲料水等の売上が伸びたが、全体的には前年をクリアすることは出来なかった。
		住関連専門店(経営者)	単価の動き	・例年8月後半になると来客数並びに商品単価も回復していたが最近が悪い。同業者の声も同じである。
		高級レストラン(経営者)	競争相手の様子	・ようやく売上減少に歯止めがかかり、前年並みの売上は確保できた。また、長崎では「長崎さるく博'06」がこの春から開催されているが、市街地の旅館はやや良くなっていると聞いているが、郊外ではほとんどその効果は見受けられない。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・盆休みに加え企業の動きが悪く、客の入りが悪かった。
		その他飲食[居酒屋](店長)	お客様の様子	・猛暑や水害等、天候に左右され客足がとてども鈍り、来客数が非常に減少した。
		タクシー運転手	来客数の動き	・蒸し暑い日が多かったので、高齢者が多い長崎では街に人はほとんどいない。
	タクシー会社(営業担当)	販売量の動き	・今月の売上は前年と比べて5%のマイナスである。	
	悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・1つのものを買うのにも慎重になっており、値段をよく吟味している。数店舗で値段の比較をしており、すぐに購入につながらない。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・期待していた中元関連の売上も不振であり、盆以降ますます客足は途絶えている。
		家電量販店(経営者)	販売量の動き	・資金繰りが悪化しており、思うように商品の仕入れができない。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・今月は契約件数が極端に悪く、来客数も少ない。
高級レストラン(専務)		来客数の動き	・繁華街が分散され、客も分散しており、売上が年々悪くなっている。	
ゴルフ場(支配人)		来客数の動き	・猛暑で客足が鈍っているのに加え、ゴルファーのプレー回数が減少している。	
美容室(経営者)		販売量の動き	・販売量は伸びず、夏枯れで夏商戦もずっと悪い。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・電子部品、半導体、コネクタ等の精密金型関係は、非常に忙しい状況でフル操業である。同業他社も同じような状況である。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・大手建設会社の下請で木造集合住宅を受注できた。今後も受注増を継続できそうである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の飲食業は夏休みに入り、天候の良い日も続いているため、来客数も売上も上がった。景気もやや良くなってきたと感じられる。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響もあり、居酒屋中心にビール等の売上が伸びている。ただ加工メーカー向けの原料商品は、加工食品の不振もあり厳しい状況である。
		繊維工業（営業担当）	それ以外	・受注量は安定しつつあるが、原油高のためにコストがかさんでいるので不安である。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先の状況を見ると、景気は少し良くなっているが、金利の上昇、ガソリン等の値上げ等により、中小企業は厳しい。大企業、中小企業の格差があり、また業種間によっても差はあり、全体的にはあまり変わっていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・仕事の引き合いが相当あるが、原料の高騰、加工賃の低下で大変厳しい状況である。
		金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・建設業界は公共工事を中心とした受注減、運送業界は原油高騰による運送経費負担増により収益圧迫を受けており、景気が良いとは言えない。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先を回っているが景気の良い話は全く聞かれない。企業に対する貸出金も資金需要はなく、伸び悩んでいる。
		新聞社（広告）	取引先の様子	・取引先である北九州市内の流通業は、商業施設の撤退が決まるなど厳しい状況である。他の商業施設でも経費節減のため、広告費が昨年より減っている。また、消費者が福岡都市圏に流れている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・ビールの販売業は前年比90%で推移している。低価格の第3のビールが売れている。リキュール類では100円のが調子がいいが、まだ客の財布のひもは固い。
		やや悪くなっている		一般機械器具製造業（経営者）
輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き			・例年に比べると荷物が動いていない状況である。新商品の投入などで若干動きがあり、ようやく例年並みとなった。
輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き			・荷動きがなく、全体的に非常に悪い状況である。
経営コンサルタント	それ以外			・企業は全般的に売上が不調で、利益的にも昨年を下回っているところがほとんどである。
その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き			・今年度4月以降リース割賦等の契約高において、前年を上回る基調でずっと推移してきたが、盆休み等の影響を受け、伸びが止まり、前年実績とほぼ同じ水準に戻った。
悪くなっている		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・7月の長梅雨や8月の猛暑で消費者の購買意欲がなく、商社間の話し合いも大変困っている。特に8月に催した見本市は前年と比べて大変悪く、商社の動向も荷動きが止まっており、先行きが不安である。
雇用関連	良くなっている やや良くなっている			
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・週間当たりの派遣の受注件数が前3か月の平均に比べて6ポイントほど上昇している。またその中の長期の割合が17ポイントほど上昇している。紹介予定の派遣も増加傾向にあり、全体的に求人数が増加している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・在職求職者が増加しており、より良い条件を求めて在職中から求職活動を進めており、採用する側としても即戦力の確保ができるので良い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が県全体で1.0になっているが、中でも正社員の求人倍率が増加している。昨年の同時期に比べると0.1ポイント上がっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者は前年比マイナス13.1ポイントとなっており、事業主都合による離職者も前年比7.7ポイント減少している。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・年度下期、年末に備えた求人（人材派遣需要）が既に活発化してきた。例年よりも1か月以上早い現象である。企業の求人意欲のおう盛さ、人材確保の積極性が感じられる。
変わらない		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療福祉業からの新規求人数が大幅な伸びを示している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・雇用形態は依然として非正規職員比率が高まりつつある。雇用件数は8月に入って横ばいで推移している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人総数は増加しているものの、パートや臨時職員等の非正規雇用求人であり、正規雇用求人数についてはなお低水準にある。
	悪くなっている	-	-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	観光型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・家族客が増加傾向にあり、客室内の人数が増え、客室単価が上昇している。周辺のホテルもかなり好調に推移している。
	やや良くなっている	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）	販売量の動き	・8月は前年同月比108%と、若干ではあるが売上が増加している。特に下旬は伸びて、前年比120%である。家族連れ客の増加と、毎年この時期のマイナス要因となる台風による影響が無いことが売上増加につながっている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・近隣にダイビング教室があって観光客が多くなっている。その影響で1人当たりの単価が上昇している。また、深夜の買物の単価も高い。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・例年の来客数の115%で推移している。観光客は全般的に好調であるが、地元客は例年より少し落ちている。
		観光型ホテル（商品企画担当）	単価の動き	・前年と比較すると稼働率はほぼ同程度で、単価は上昇している。
	変わらない	百貨店（担当者）	販売量の動き	・中元時期のずれにより動向判断が困難となっている。中元は7月ではプラス与件、8月ではマイナス与件となっているが、2か月の累計ではほぼ前年並みである。両月において食品は好調を維持するが、衣料品は紳士、子供を中心に苦戦気味である。紳士服は特に昨年まで好調のかりゆしウェアのマイナスが大きい。秋商品においては関東、関西方面での動きが活発であることから、県内での納品量と時期が懸念材料となっている。入荷遅れや展開量減により動向が大きく左右される。
			コンビニ（エリア担当）	来客数の動き
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・移転新規オープンした店舗は非常に売上が好調であるが、他の既存店の売上は非常に厳しく、同業他社も同様である。客は、いまだに安くて良い商品を追い続けている。デフレ脱却にはまだ時間がかかりそうな雰囲気である。
			観光名所（職員）	来客数の動き
		ゴルフ場（経営者）	競争相手の様子	・前年よりも更に低い単価で集客を図っている競争相手があり、その対応で苦慮している。
やや悪くなっている		その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・前年より10%以上落ちている。業種形態の需要の問題、少子化傾向、今年の沖縄の旧盆時期のずれ、リピーター観光客の増加などが原因として挙げられる。少しずつ様子が変わってきている。
悪くなっている	-	-	-	-
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品生産業（管理部門）	受注価格や販売価格の動き	・多少の納入価格値上げを実施している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	輸送業（営業・運営担当）	受注量や販売量の動き	・旧盆時期には一時的に受注量が増加したが、それ以外に目立って大きな動きは見当たらない。エアコン等空調機の配送が若干増加している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大型案件が無いので、受注量が伸びない。
		会計事務所（所長）	取引先の様子	・取引先の経営状況は、卸売、小売、建設といった多くの業種において依然、厳しい状況が続いている。一番の原因は売上が伸びないことである。消費マインドがまだ低迷している可能性も推測される。
		コピー業（代表者）	受注量や販売量の動き	・8月の売上目標100%に対し、実質売上77.6%である。目標は3～4年前までは充分クリアできた数字である。印刷市場が、年々減少しつつある印象を受ける。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注件数が鈍くなってきている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・短期ではなく、長期の派遣依頼が増えている。また、従来の受付やOA操作より、理学・作業療法士や設計関係など、専門的な職種が幅広く増えてきている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・8月は、大手企業で求人数が増えている。業務拡大のために人員募集をしている企業も多いが、そのスタッフを管理する管理職スタッフの募集も以前より目立ってきている。これまでの採用条件よりも良い条件での管理職募集もあり、団塊世代退職問題への意識も表れている。波及効果で派遣会社への依頼も以前より増えている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・県内外の求人数が伸びており、特に県外からの求人は増加傾向にある。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の新規求人数は、4,596人で3か月前（4月3,606人）と比較して27.5%増加している。数値を引き上げている求人は、輸送用機械器具製造業の531人、運輸業の945人である。前者は自動車産業への派遣求人で4月とほぼ同数の期間工、後者は一過性のバス会社からの求人772人を含んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・採用には依然として強気ではある。しかし、原油高によるコストアップ、金利先高感などにより、企業側に様子見の傾向も多くみられる。
		やや悪くなっている	-	-
	悪くなっている	-	-	-